

# 議題に関する基礎データ等について

2011年8月



三重県

# 目次

## 1 若者、女性に関する基礎データ

1-	若者人口の推移(男女計)	4
1-	若者人口の推移(男性)	5
1-	若者人口の推移(女性)	6
1-	若者の流出・流入状況(男女計)	7
1-	若者の流出・流入状況(男性)	8
1-	若者の流出・流入状況(女性)	9
1-	生産年齢人口の推移(男女計)	10
1-	生産年齢人口の推移(男性)	11
1-	生産年齢人口の推移(女性)	12
1-	就業者数の推移(男女計)	13
1-	就業者数の推移(男性)	14
1-	就業者数の推移(女性)	15

1-	女性の就業状況	16
1-	三重県内高卒者の進路の状況	17
1-	三重県内高卒者の就職状況	18
1-	三重県内高卒者の県内外への就職状況	19
1-	三重大学の出身地別入学者数と卒業生の 県内外への就職状況	20

## 2 三重県民の意識等

2-	三重県に対する愛着について	21
2-	三重県への定住意向について	22
2-	他の地域に住みたい理由	23
2-	「豊かな暮らし」の重視度・充足度	24
2-	30代の親への依存の状況	25
2-	若年無業者の状況	26

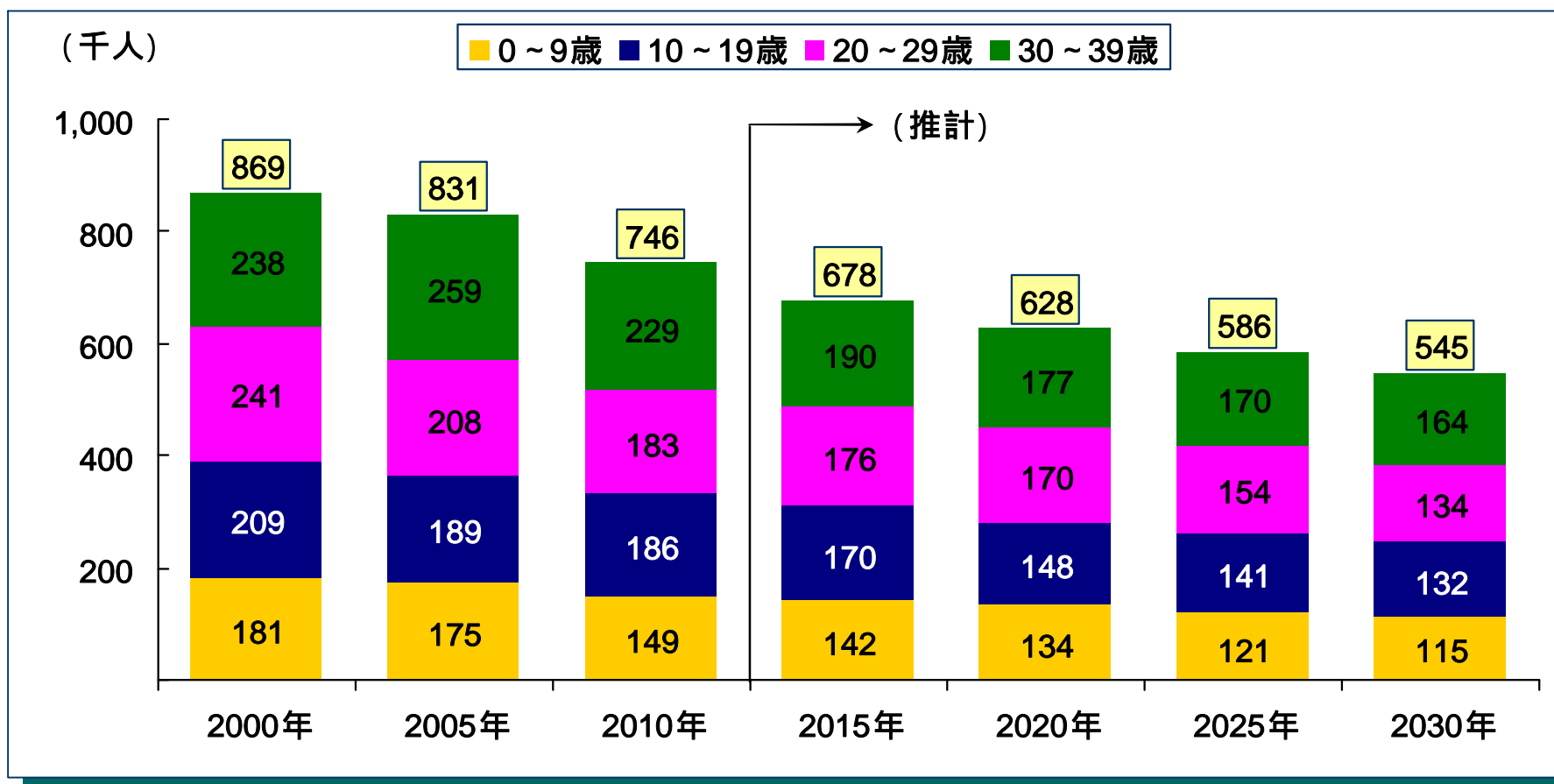
# 目次

3	三重県のグローバル化に関する基礎データ等	
3-	県内高等教育機関への外国人留学生数	27
3-	県内高等教育機関の出身国・地域別留学生数	28
3-	県内企業の海外への事業展開の状況	29
3-	海外からの企業進出の事例	30
3	海外への販路拡大・技術連携の事例	31
3-	国際環境技術移転研究センターにおける国内受入研修の実施状況	32
3-	グローバル化の中での人づくりに係る三重県教育委員会の取組	33 - 35
3-	三重大学の取組(キャリアアッププログラムの取組)	36
3-	三重県への海外からの宿泊者数の状況	37
3-	県から海外への渡航者の状況	38

# 1- 若者人口の推移(男女計) 2030年は2010年の7割程度に

- 三重県における男女計の若年人口(30代まで)の推移をみると、2000年には約87万人だったのが、減少傾向を辿り、2025年には60万人を割り込むと見込まれる。2030年には約55万人と、2010年と比べて7割程度に落ち込むとみられる。

【男女計】

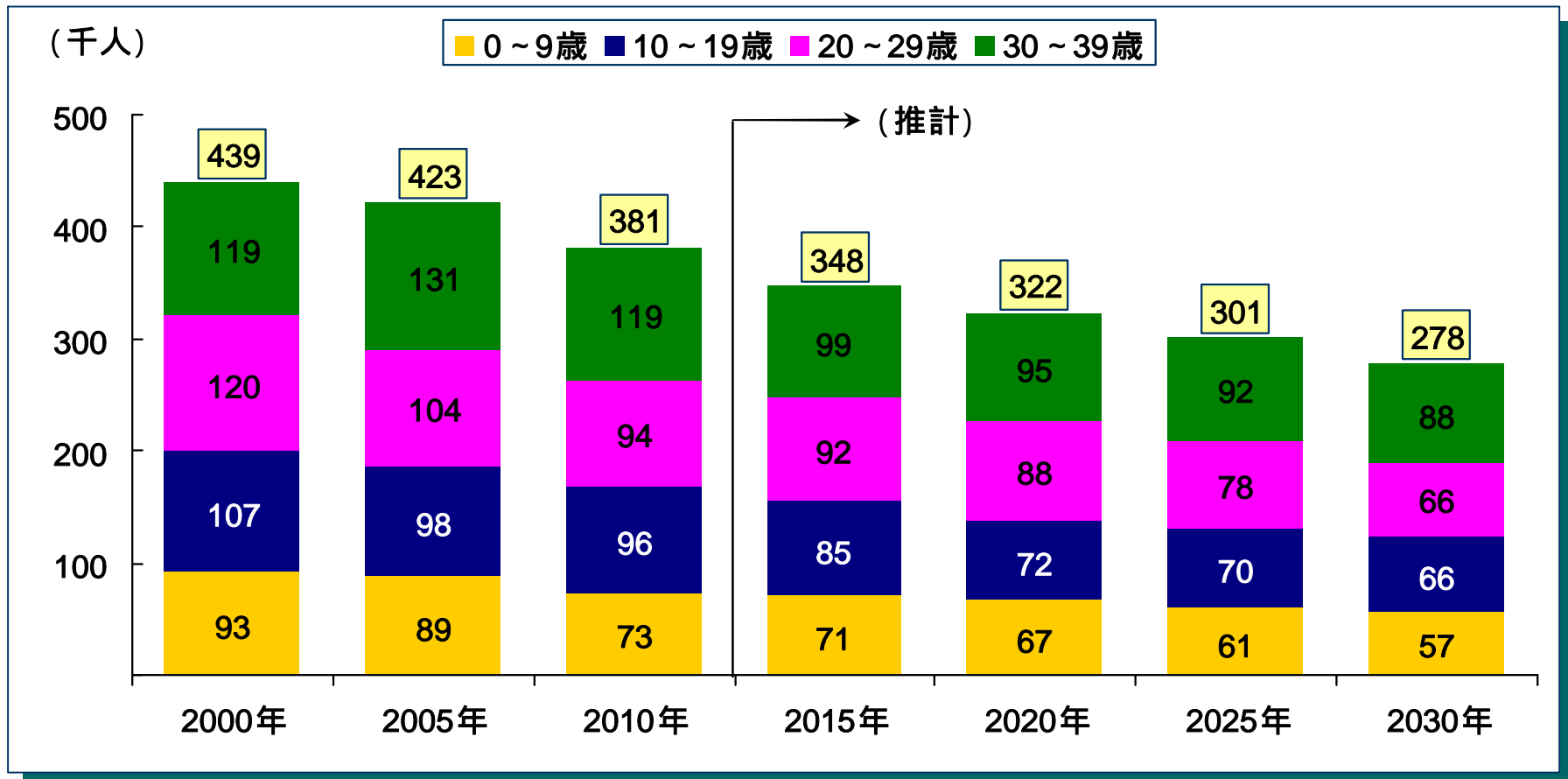


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 若者人口の推移(男性) 2030年には30万人を割り込む見通し

- 三重県における男性の若年人口(30代まで)の推移をみると、2000年には約44万人だったのが、減少傾向を辿り、2030年には30万人を割り込むと見込まれる。2030年を2010年(約38万人)と比較すると、約7割の水準に落ち込むとみられる。

【男性】

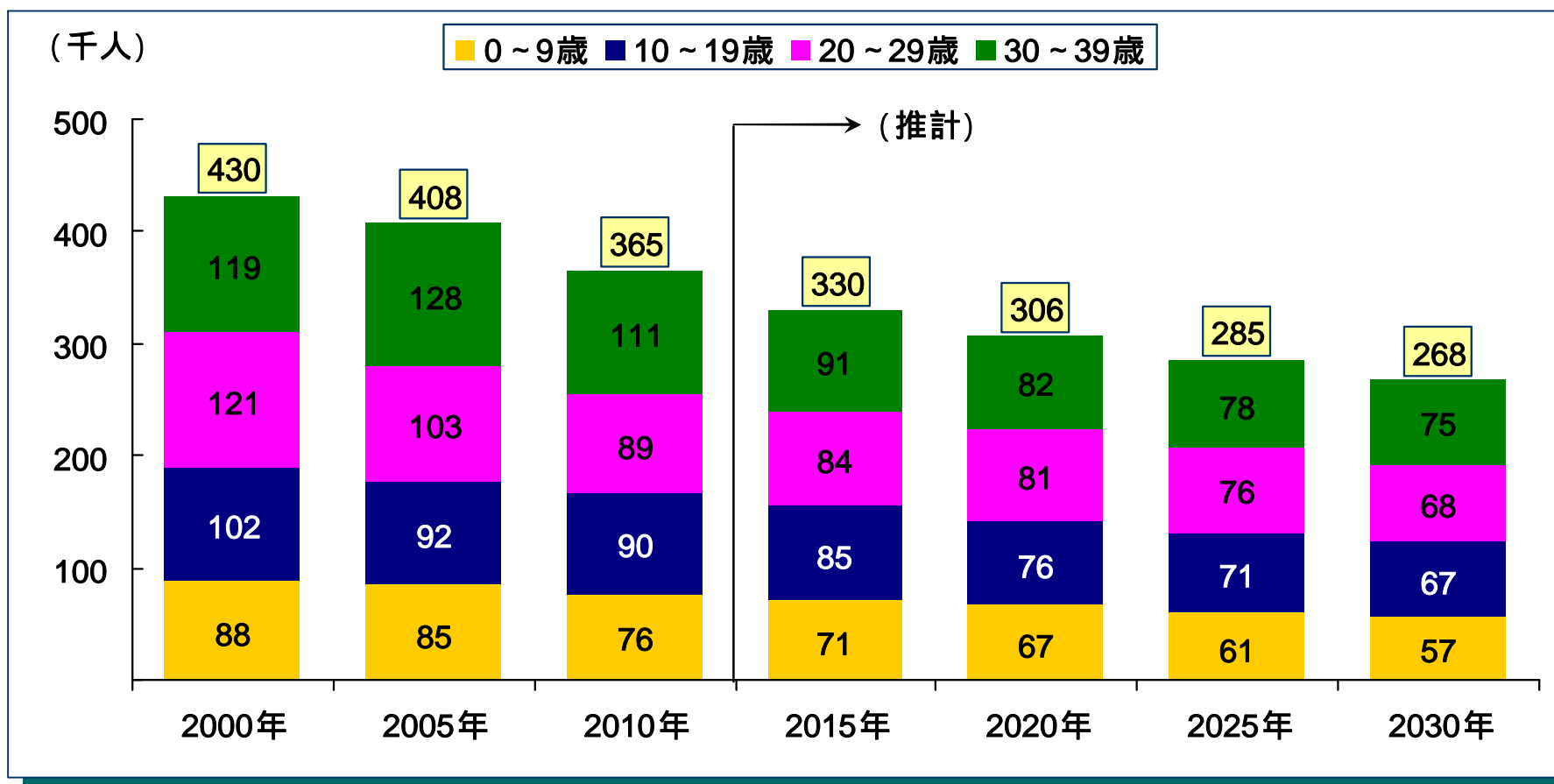


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 若者人口の推移(女性) 2025年には30万人を割り込む見通し

- 三重県における女性の若年人口(30代まで)の推移をみると、2000年には約43万人だったのが、減少傾向を辿り、2025年には30万人を割り込むと見込まれる。2030年を2010年(約37万人)と比較すると、約7割の水準に落ち込むとみられる。

【女性】

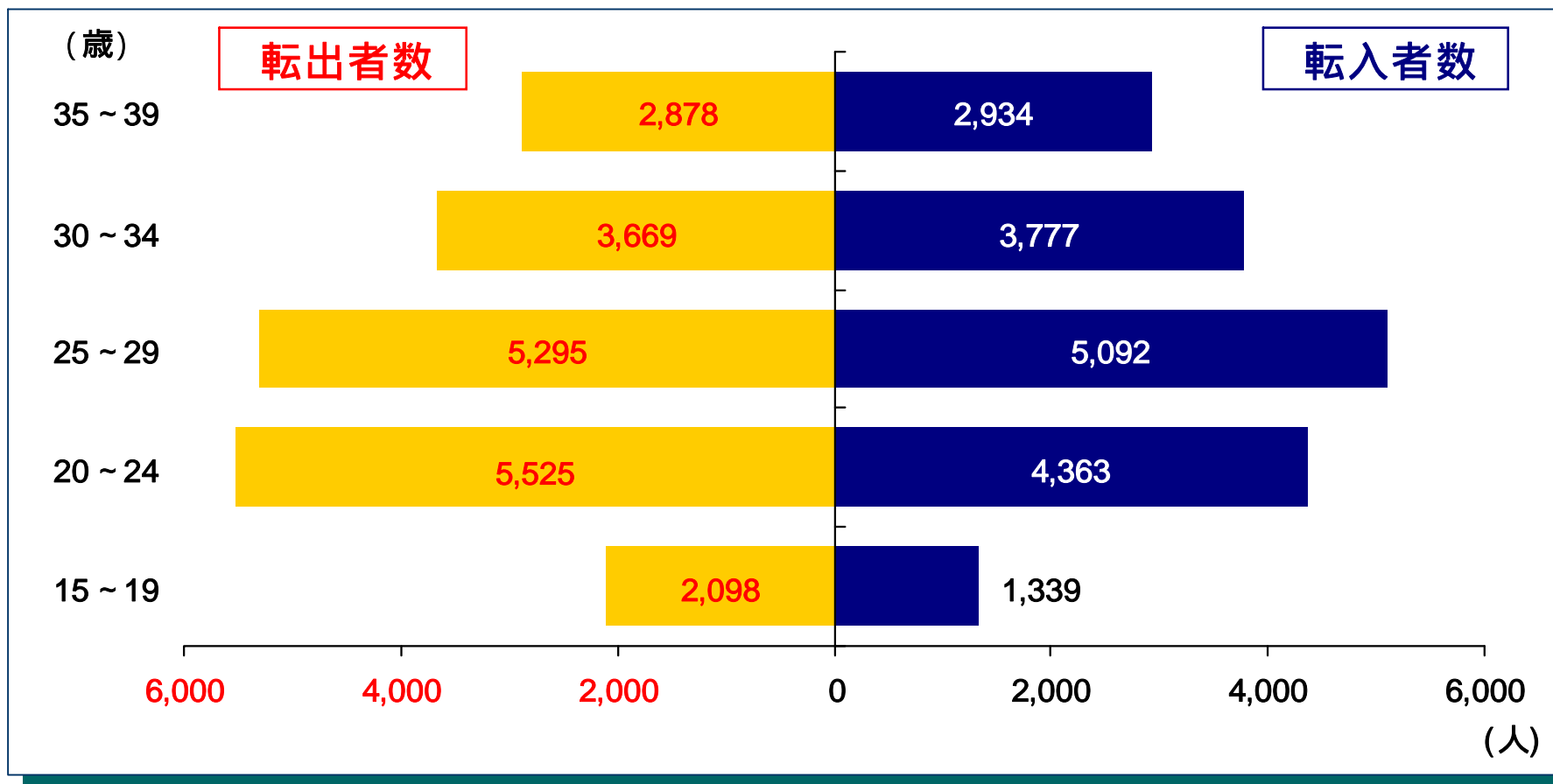


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 若者の流出・流入状況(男女計) 2010年は総じて「転出超」

- 「住民基本台帳人口移動報告」より、2010年の三重県における他の都道府県との間での人口流出・流入の状況を男女計で見ると、とりわけ10～20代で転出者が転入者を上回る「転出超」の状況にある。

【男女計】

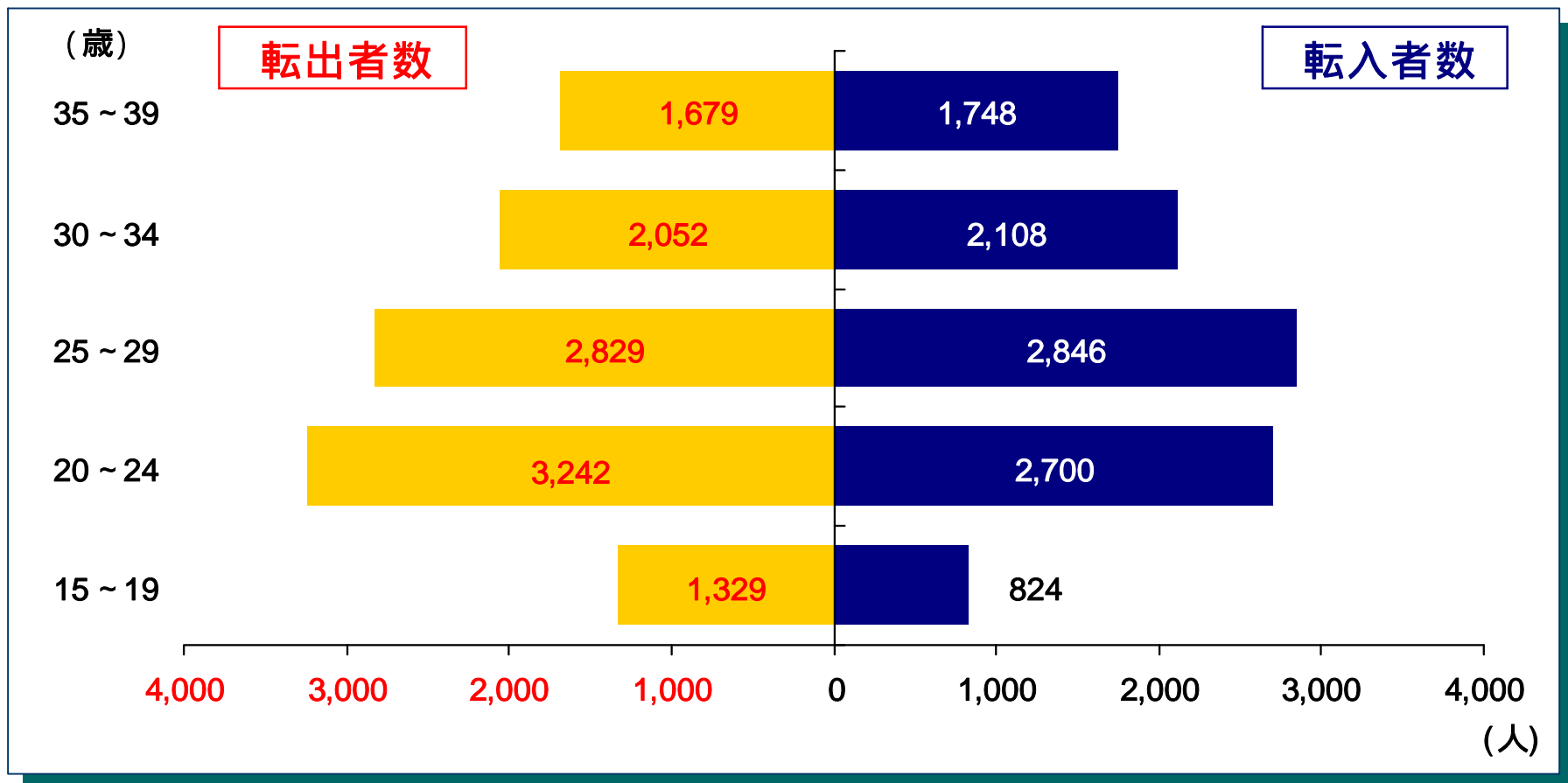


(出典)総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告(2010年)」

# 1- 若者の流出・流入状況(男性) 若い世代の県外転出が顕著

- 2010年の三重県における男性の他の都道府県との間での人口流出・流入の状況を見ると、10代後半、20代前半の転出者数が転入者数を500人以上上回っている点が特徴的と言える。  
ただし、20代後半から30代は若干、転入者数が転出者数を上回っている。

【男性】



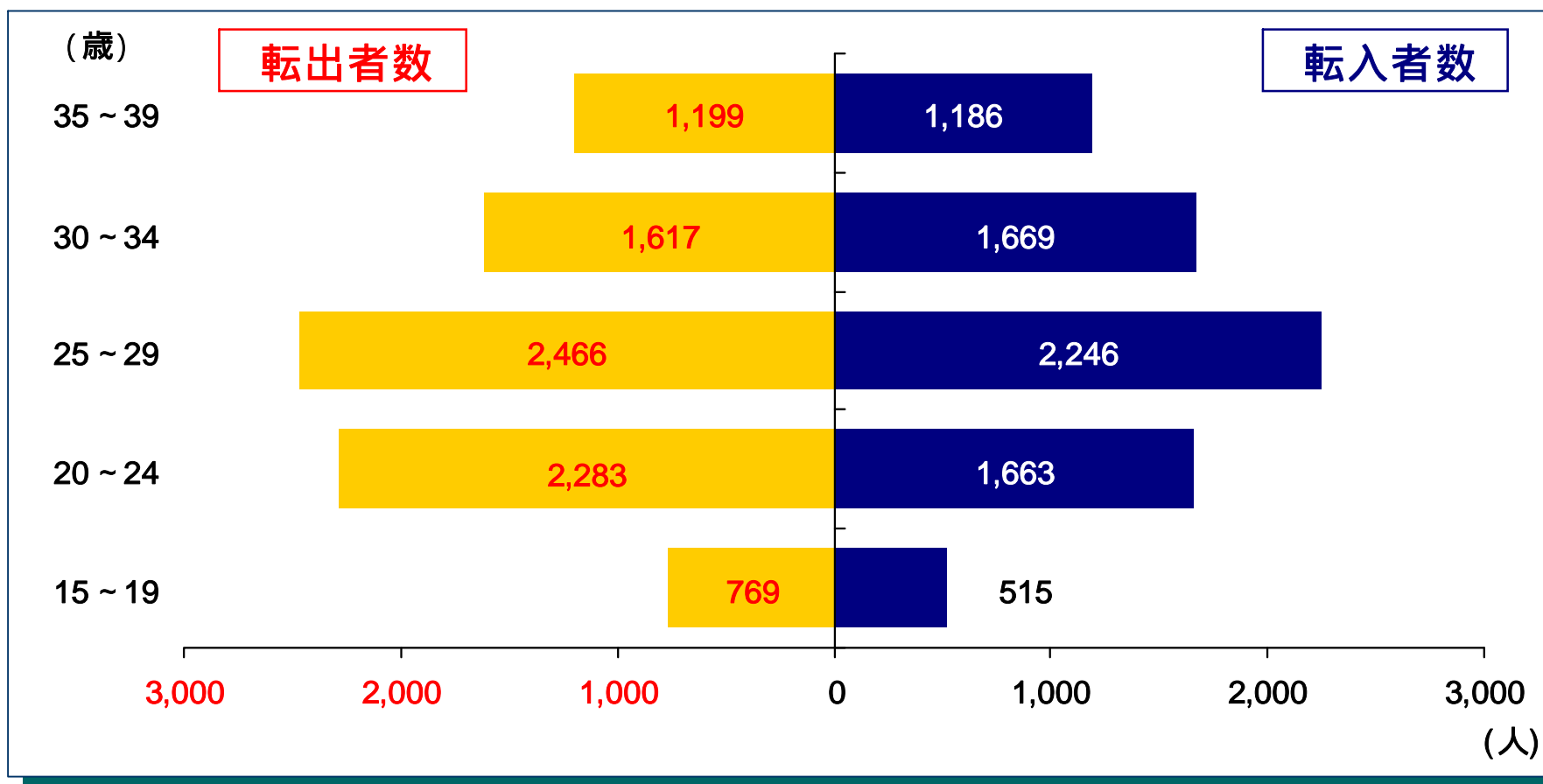
(出典)総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告(2010年)」



# 1- 若者の流出・流入状況(女性) 20代前半が大幅な転出超

- 2010年の三重県における女性の他の都道府県との間での人口流出・流入の状況を見ると、30代前半を除き、全ての世代で転出者数が転入者数を上回る状況となっている。とりわけ、20代前半は転出者数が転入者数を600人以上上回っている。

【女性】

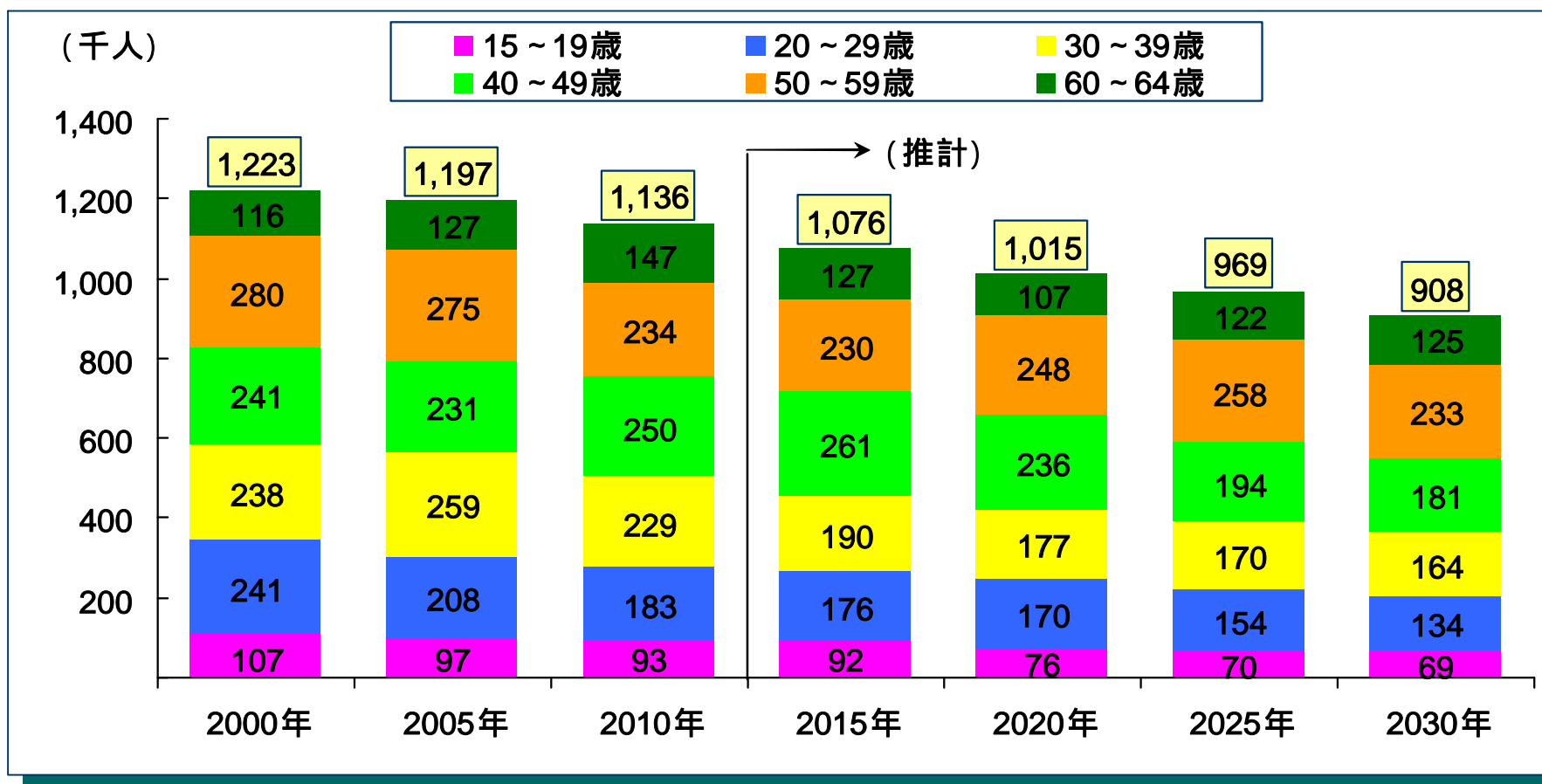


(出典)総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告(2010年)」

# 1- 生産年齢人口の推移(男女計) 2025年には100万人割れへ

- 三重県における男女計の生産年齢人口(15～64歳)の推移をみると、2000年には約122万人だったのが、減少傾向を辿り、2025年には100万人を割り込むと見込まれる。2030年には約91万人と、2010年と比べて8割弱に落ち込むとみられる。

【男女計】

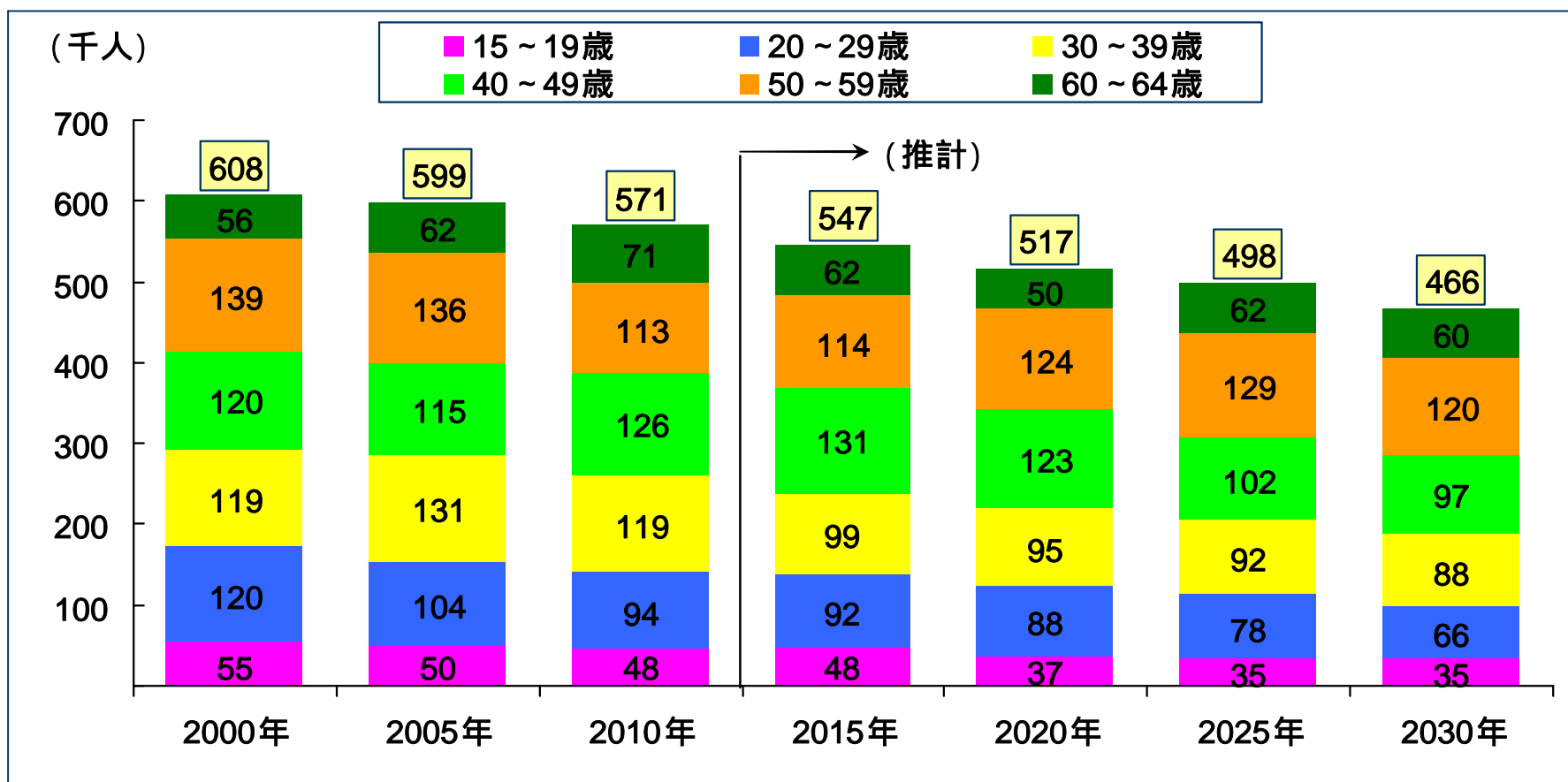


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 生産年齢人口の推移(男性) 2025年には50万人割れへ

- 三重県における男性の生産年齢人口(15～64歳)の推移をみると、2000年には約61万人だったのが、減少傾向を辿り、2025年には50万人を割り込むと見込まれる。2030年には約47万人と、2010年と比べて8割程度に落ち込むとみられる。

【男性】

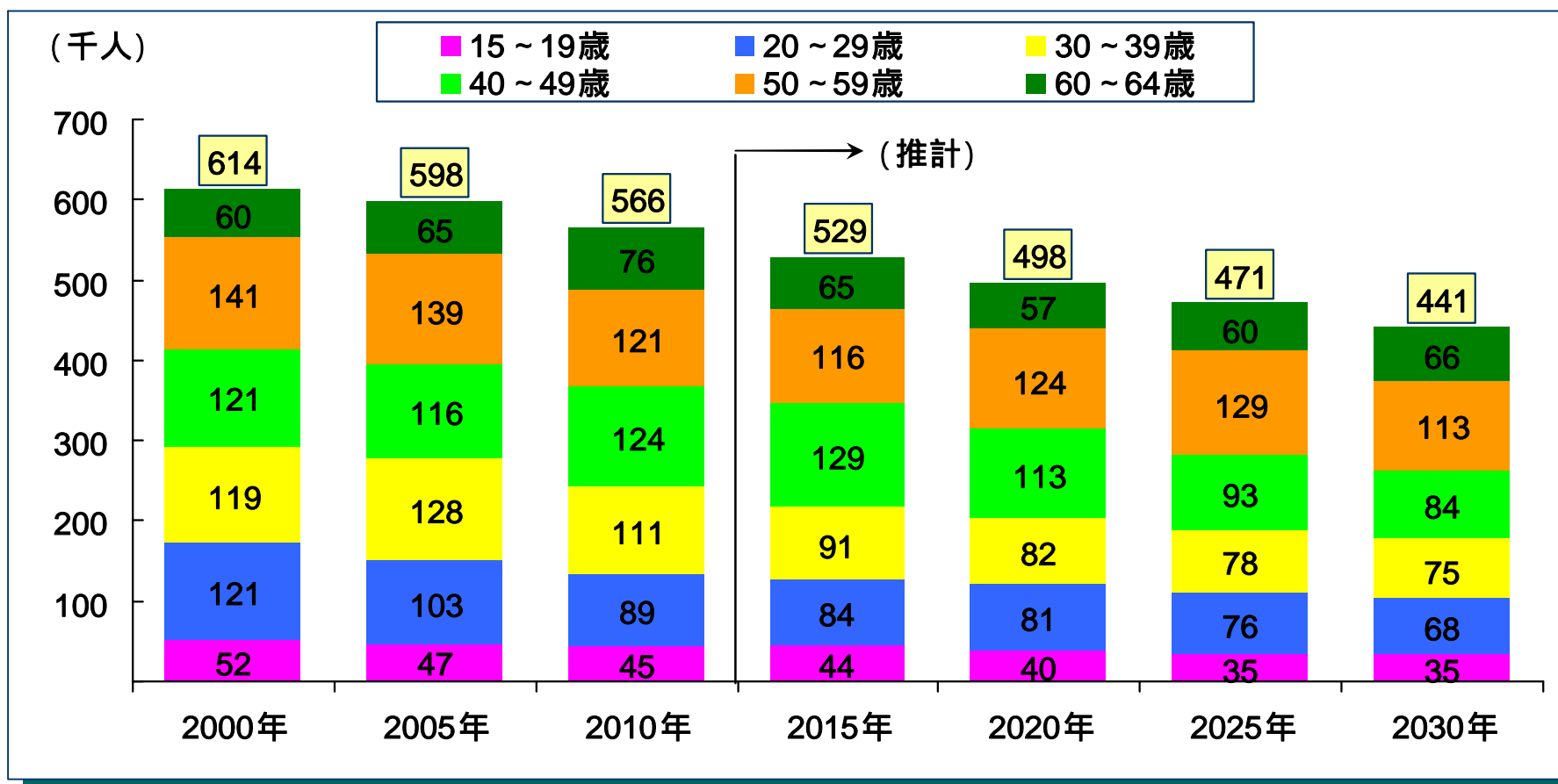


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 生産年齢人口の推移(女性) 2020年には50万人割れへ

- 三重県における女性の生産年齢人口(15～64歳)の推移をみると、2000年には約61万人だったのが、減少傾向を辿り、2020年には50万人を割り込むと見込まれる。2030年には約44万人と、2010年と比べて8割弱に落ち込むとみられる。

【女性】

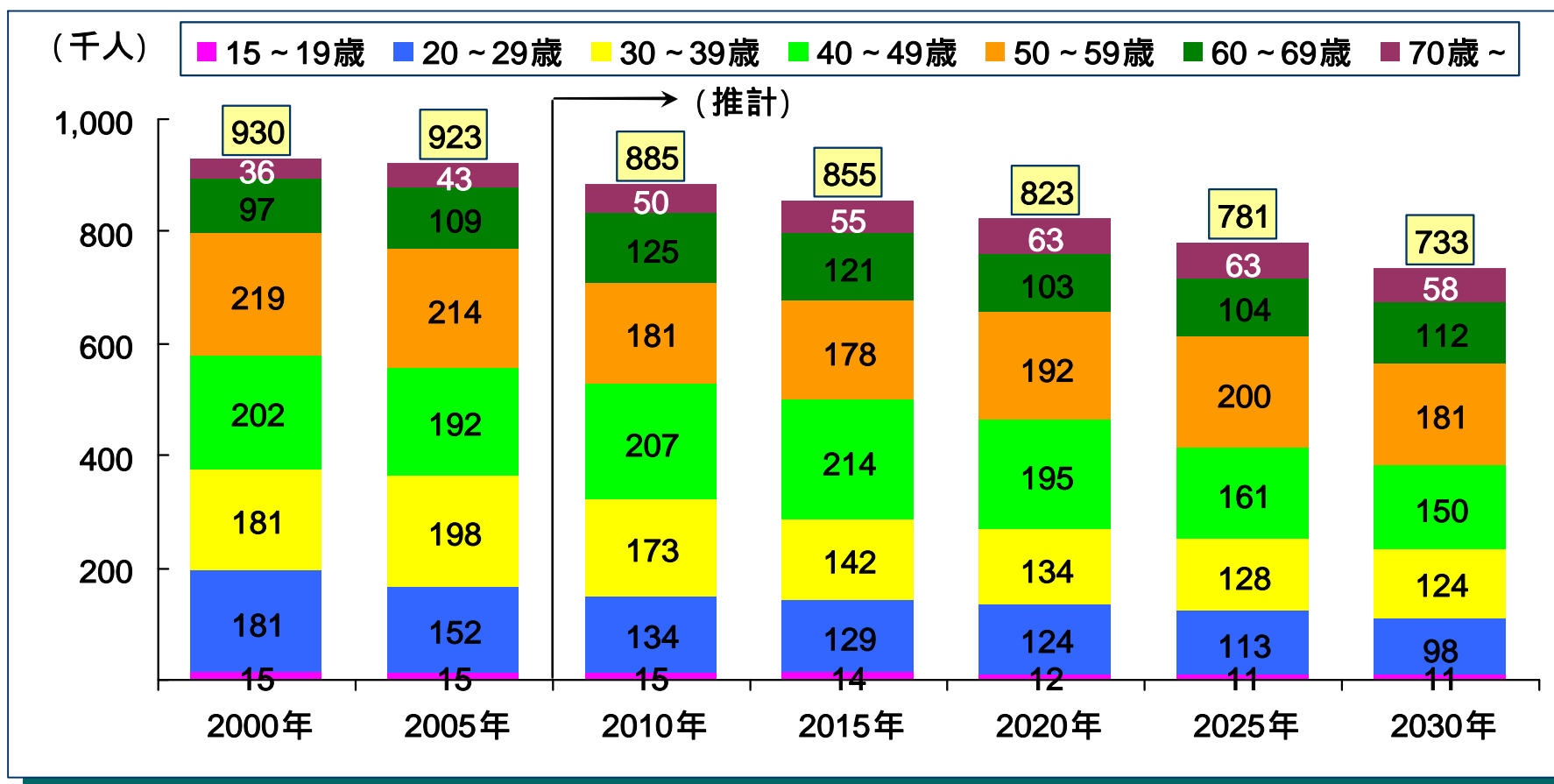


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 就業者数の推移(男女計) 2025年には80万人割れへ

- 三重県における男女計の就業者数の推移をみると、2000年には約93万人だったのが、減少傾向を辿り、2025年には80万人を割り込むと見込まれる。2030年には約73万人と、2010年と比べて8割程度に落ち込むとみられる。

【男女計】

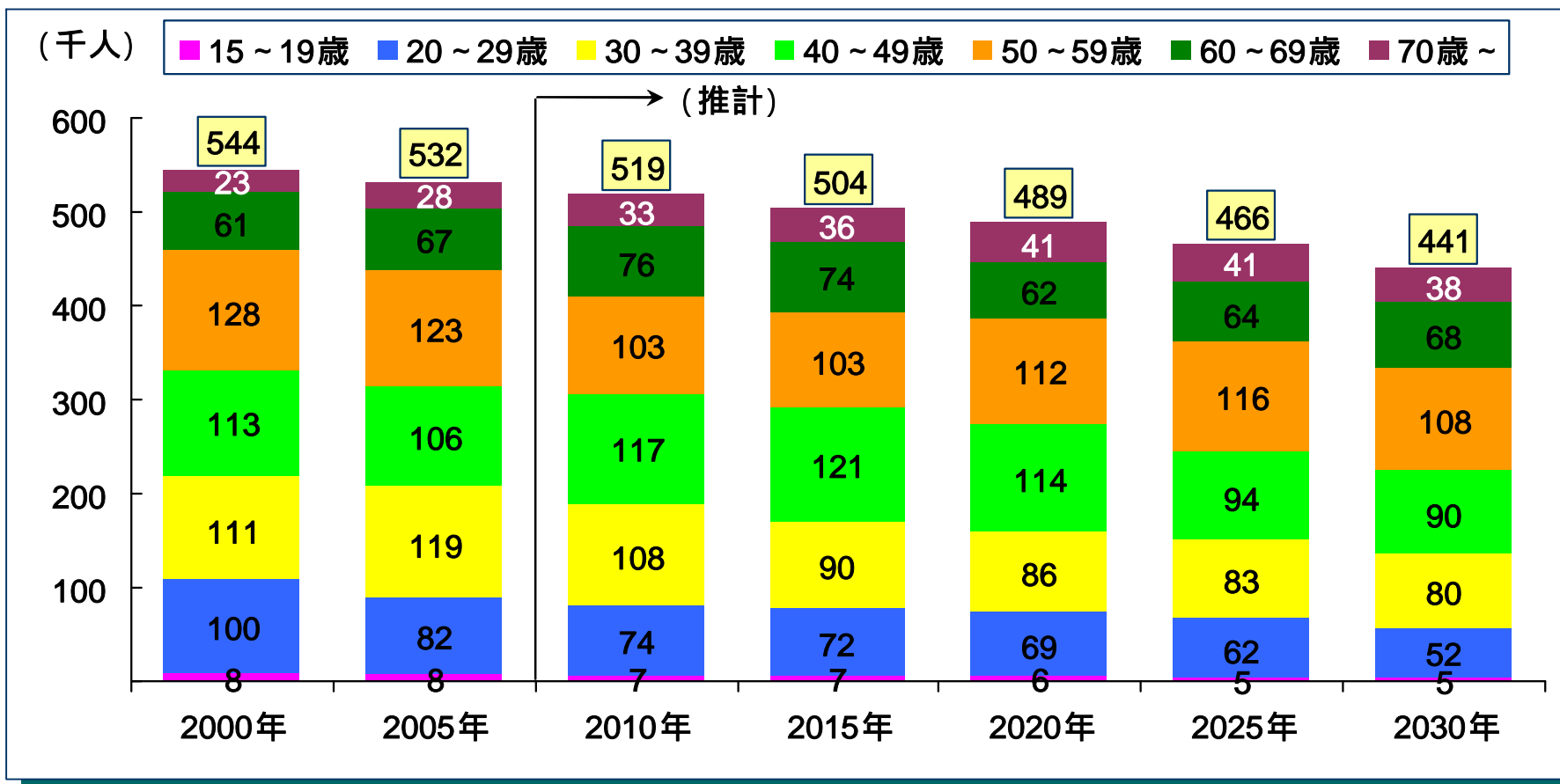


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 就業者数の推移(男性) 2020年には50万人割れへ

- 三重県における男性の就業者数の推移をみると、2000年には約54万人だったのが、減少傾向を辿り、2020年には50万人を割り込むと見込まれる。2030年には約44万人と、2010年と比べて8割強まで落ち込むとみられる。

【男性】

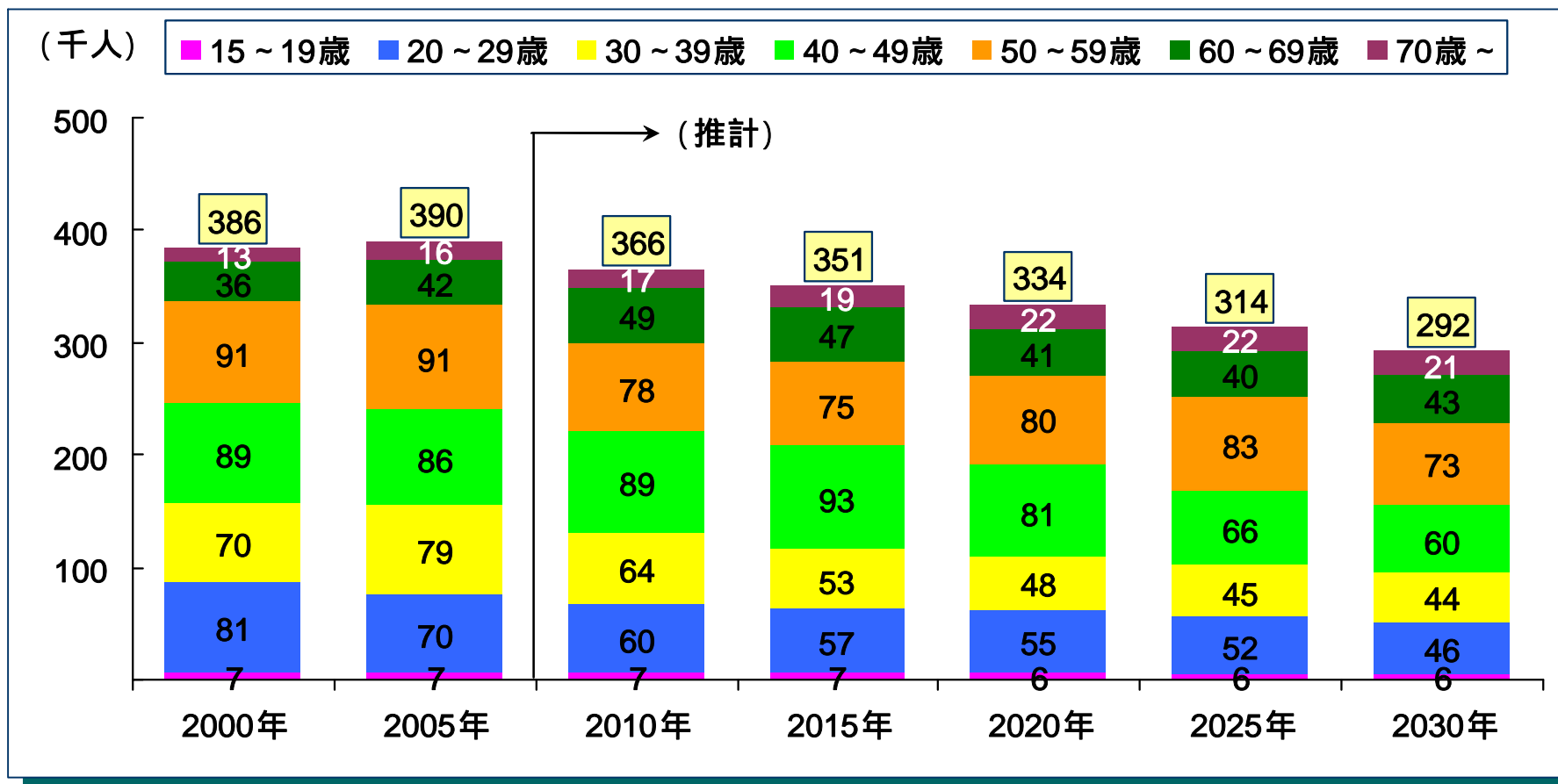


(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 就業者数の推移(女性) 2030年には30万人割れへ

- 三重県における女性の就業者数の推移をみると、2000年には約39万人だったのが、減少傾向を辿り、2030年には30万人を割り込むと見込まれる。2030年には約29万人と、2010年と比べておよそ8割に落ち込むとみられる。

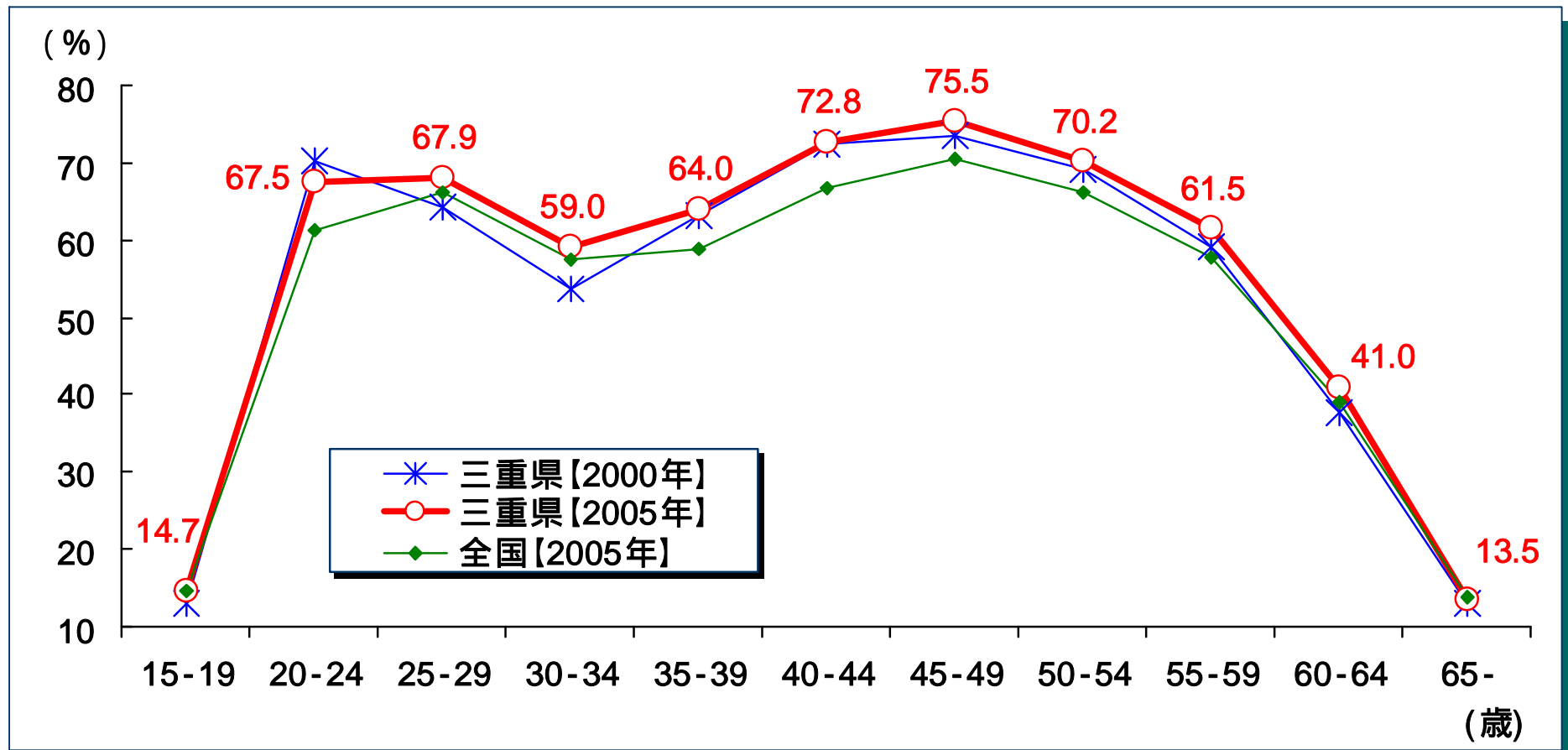
【女性】



(出典) 総務省統計局「国勢調査」

# 1- 女性の就業状況 全国と比べて就業率は高め

- 三重県における就業率(就業者数/総人口)の動向をみると、2005年は2000年と比べて「M字カーブ」の谷がやや浅くなっているうえ、全国と比べると軒並み就業率は高くなっている。



(資料) 総務省統計局「国勢調査」

(注) 就業率 = 就業者数 ÷ 総人口 × 100%。



# 1- 三重県内高卒者の進路の状況 大学等進学率が5割超に

- 「学校基本調査」より、三重県の高校卒業者の進路の状況をみると、卒業生数が漸減傾向にあるなか、大学等進学率が5年連続で5割を上回っている。ただし、進学者の数そのものは2007年をピークに減少に転じている。
- 就職率はこのところ25%程度で推移している。

(単位:人)

	卒業生数	大学等 進学者	専修学校等 入学者	就職者	一時的な 仕事に 就いた者	その他	Bのうち 就職して いる者	Cのうち 就職して いる者	大学等 進学率	就職率
	(A)	(B)	(C)	(D)			(E)	(F)	(B) ÷ (A)	(D+E+F) ÷ (A)
2004年	18,741	8,741	4,370	4,372	237	1,021	6	12	46.6%	23.4%
2005年	18,330	8,997	3,885	4,388	188	872	0	9	49.1%	24.0%
2006年	18,057	8,972	3,538	4,565	237	745	1	10	49.7%	25.3%
2007年	17,911	9,150	3,230	4,680	179	672	7	9	51.1%	26.2%
2008年	17,031	8,703	2,918	4,626	181	603	0	5	51.1%	27.2%
2009年	16,497	8,564	2,839	4,458	102	534	1	3	51.9%	27.0%
2010年	16,437	8,569	2,978	3,930	177	783	3	2	52.1%	23.9%
2011年	16,366	8,548	3,100	4,021	197	500	0	1	52.2%	24.6%

(出典) 三重県「学校基本調査」

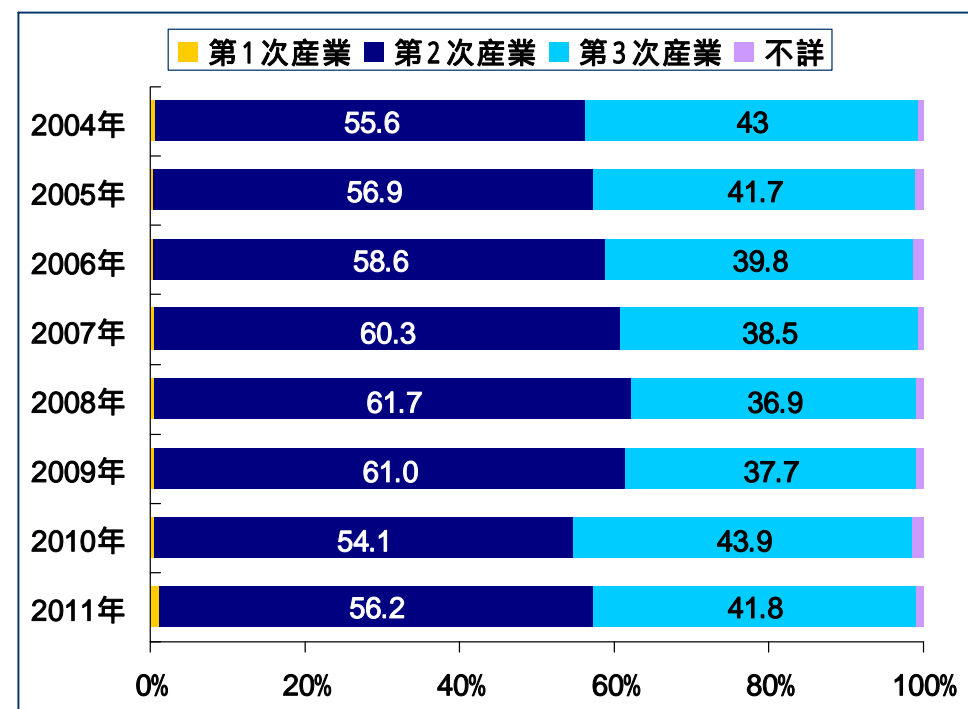
# 1- 三重県内高卒者の就職状況

## 第2次産業への就職者数が過半

- 「学校基本調査」より、三重県の高卒者の就職状況をみると、第2次産業への就職者数が最も多い状況が続いており、産業全体に占める割合も5割超で推移している。
- この背景として、三重県では工業高校が多数あり、多くの卒業生を輩出しているうえ、産業全体に占める製造業の割合が高く、就職先として製造メーカーが多いことなどが挙げられる。

(単位:人)

	就職者 総数	第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業	不詳
2004年	4,390	30	2,442	1,889	29
2005年	4,397	14	2,500	1,835	48
2006年	4,576	14	2,683	1,822	57
2007年	4,696	19	2,833	1,809	35
2008年	4,631	23	2,858	1,708	42
2009年	4,462	16	2,722	1,682	42
2010年	3,935	21	2,130	1,728	56
2011年	4,022	45	2,261	1,680	36



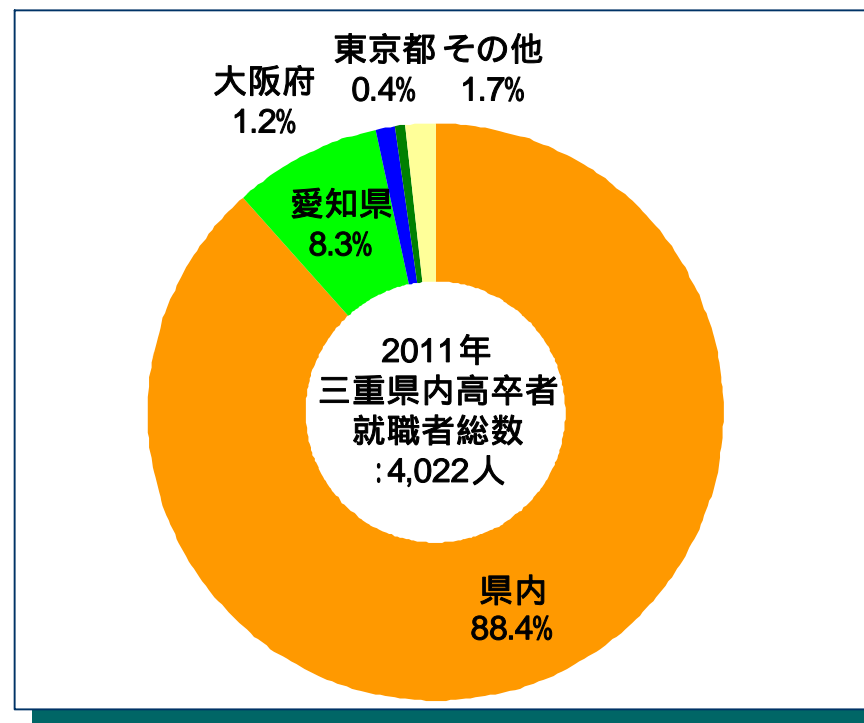
(出典) 三重県「学校基本調査」

# 1- 三重県内高卒者の県内外への就職状況 県内就職者が8割強

- 「学校基本調査」より、三重県の高卒者の県内外への就職状況をみると、年ごとに多少の上下はあるものの、県内就職者が最も多い状況が続いており、全体の約8～9割を占めている。2011年の県内就職率は88.4%と、全国平均(81.6%)をやや上回り、全国順位も17位(岩手・宮城・福島を除く)と、中位よりやや上に位置している。

(単位:人)

	就職者 総数	県内	県外				合計
			愛知県	大阪府	東京都	その他	
2004年	4,390	3,759	400	73	42	116	631
2005年	4,397	3,770	418	61	39	109	627
2006年	4,576	3,824	515	69	42	126	752
2007年	4,696	3,934	538	79	34	111	762
2008年	4,631	3,845	542	69	43	132	786
2009年	4,462	3,746	552	64	24	76	716
2010年	3,935	3,449	346	54	12	74	486
2011年	4,022	3,554	335	47	16	70	468

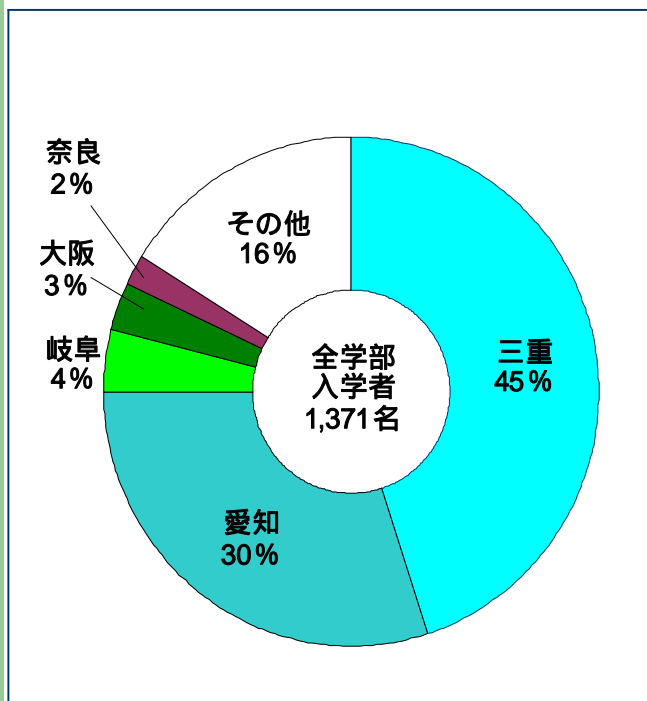


(出典) 三重県「学校基本調査」

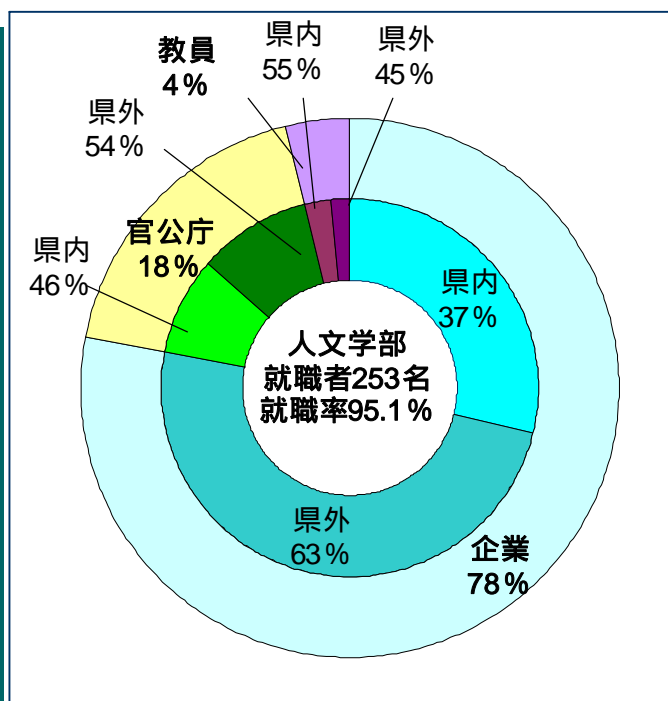
# 1- 三重大学の出身地別入学者数と卒業生の県内外への就職状況 県外流出が顕著

- 2011年4月における三重大学の入学者数を出身都道府県別にみると、県内出身者の割合が45%と最も高く、次いで愛知県が30%となっている。
- 2011年3月における三重大学人文学部と工学部の卒業生の県内外への就職状況を見ると、いずれの学部においてもその多くが県外に流出している。とりわけ工学部では、企業への就職者は、8割以上が県外となっている。

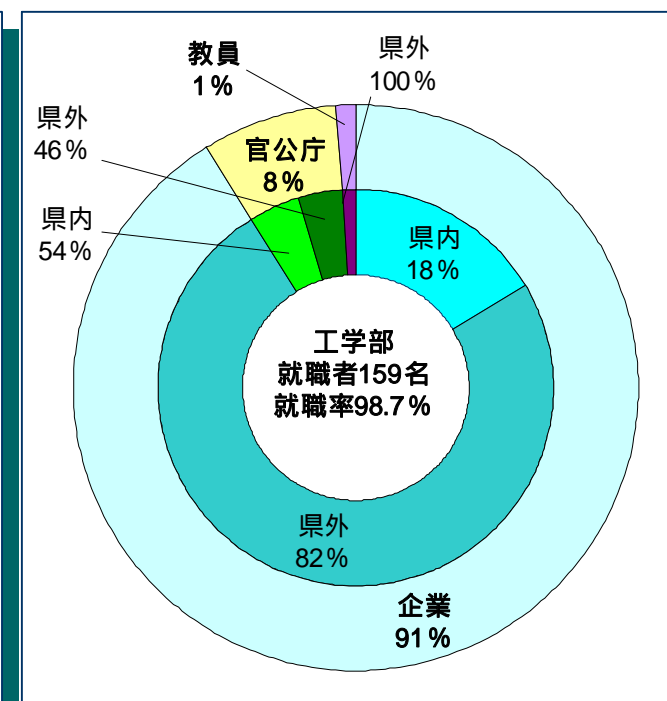
【全学部入学者】



【人文学部就職者】



【工学部就職者】

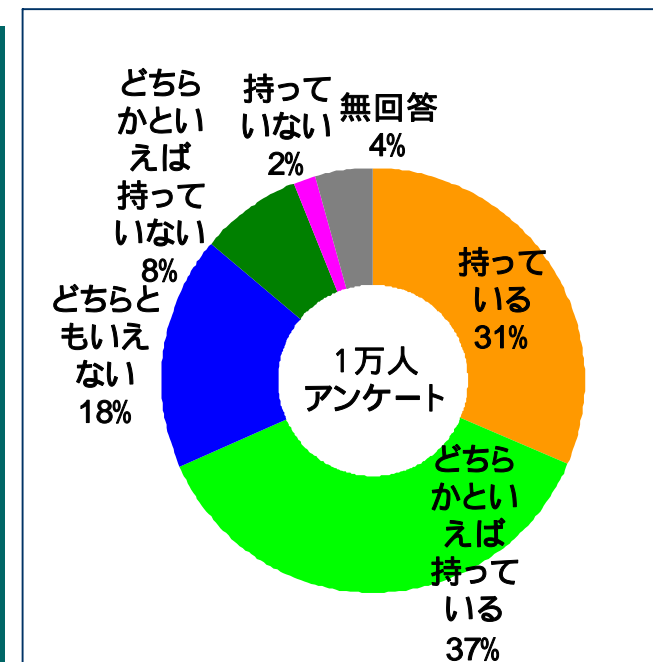
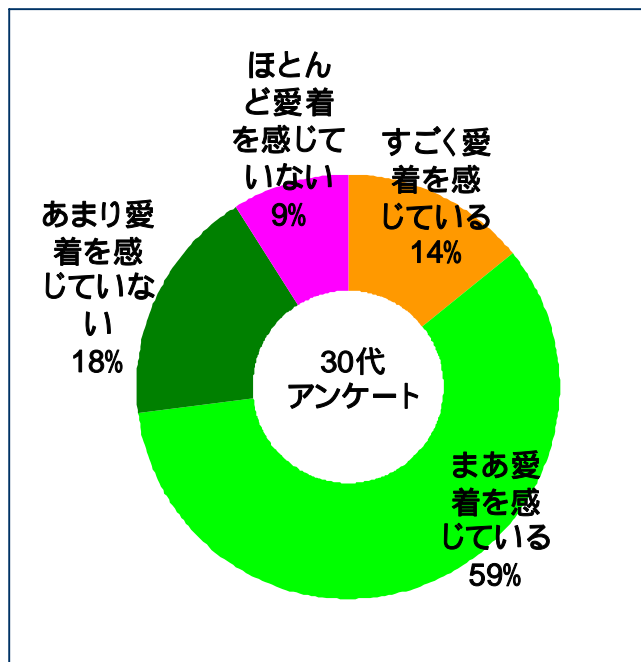
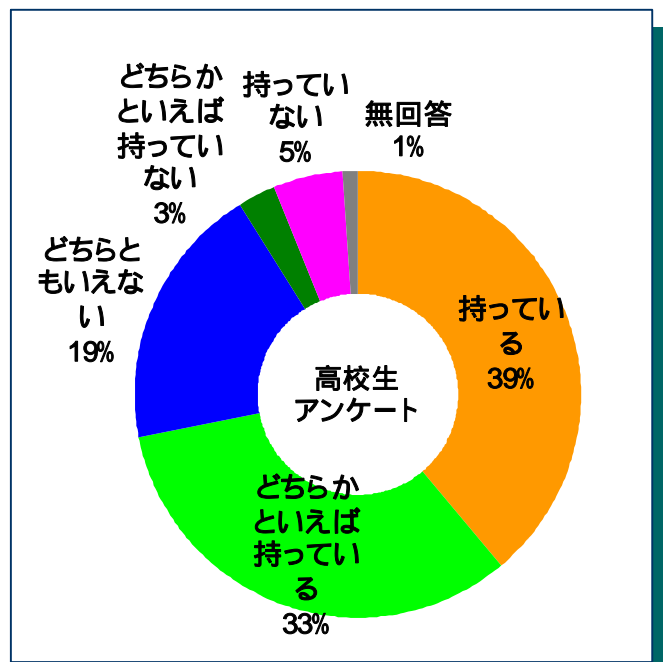


(出典) 三重大学「平成23年度 三重大学概要」

## 2- 三重県に対する愛着について 愛着を持つ県民は約7割

- 三重県が、県内高校生・30代・県民1万人に対して行ったアンケート調査より、「現在住んでいる地域に対する愛着度」をみると、いずれのアンケートでも、およそ7割の回答者が「愛着を持っている(感じている)」と答えている。

### 【現在住んでいる地域への愛着について】

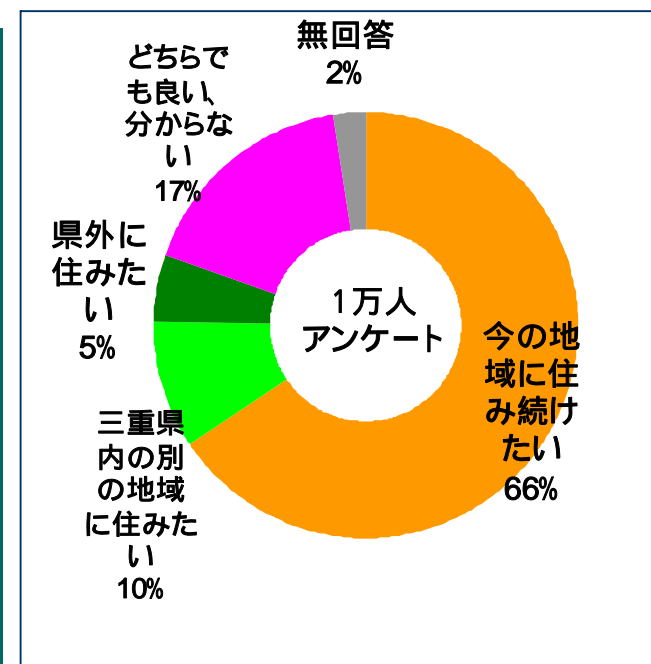
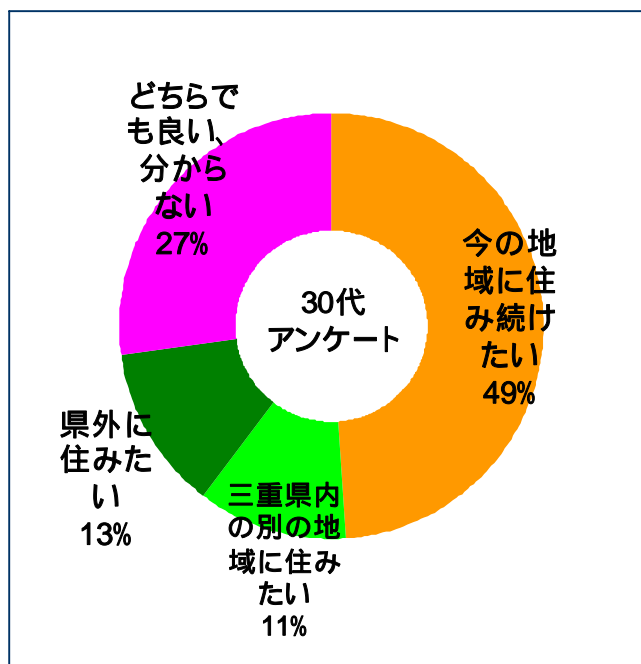
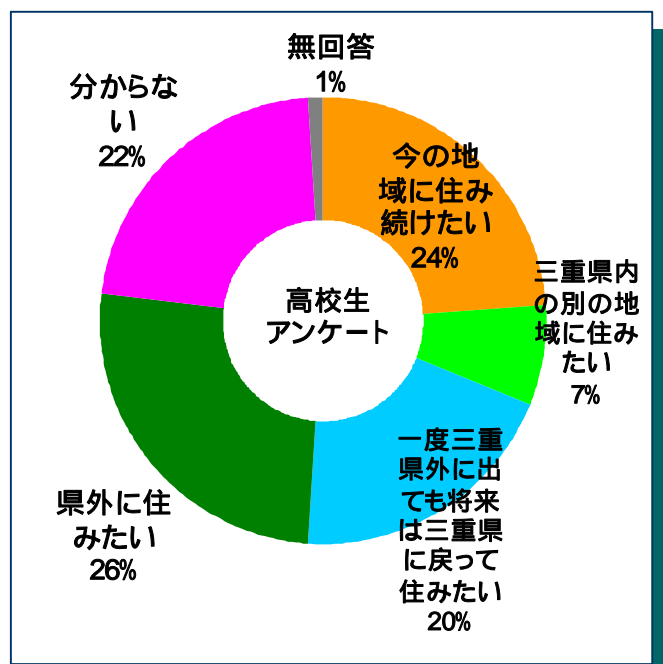


(出典) 三重県「高校生アンケート(2011年調査)」、同「30代の実態に関するアンケート(2009年12月調査)」、  
同「1万人アンケート(2010年3月調査)」

## 2- 三重県に対する定住意向について 定住意向を持つ県民は過半

- 「現在住んでいる地域への今後の定住意向」をみると、「今の地域、または三重県内の別の地域に住みたい」と答えた割合は、30代アンケートでおよそ6割、1万人アンケートでおよそ7割に達している。
- 高校生に対するアンケートでは、「今の地域、または三重県内の別の地域に住みたい」に「将来は戻りたい」を含めれば、半数以上の回答者が定住意向を持っている。

【現在住んでいる地域への今後の定住意向】



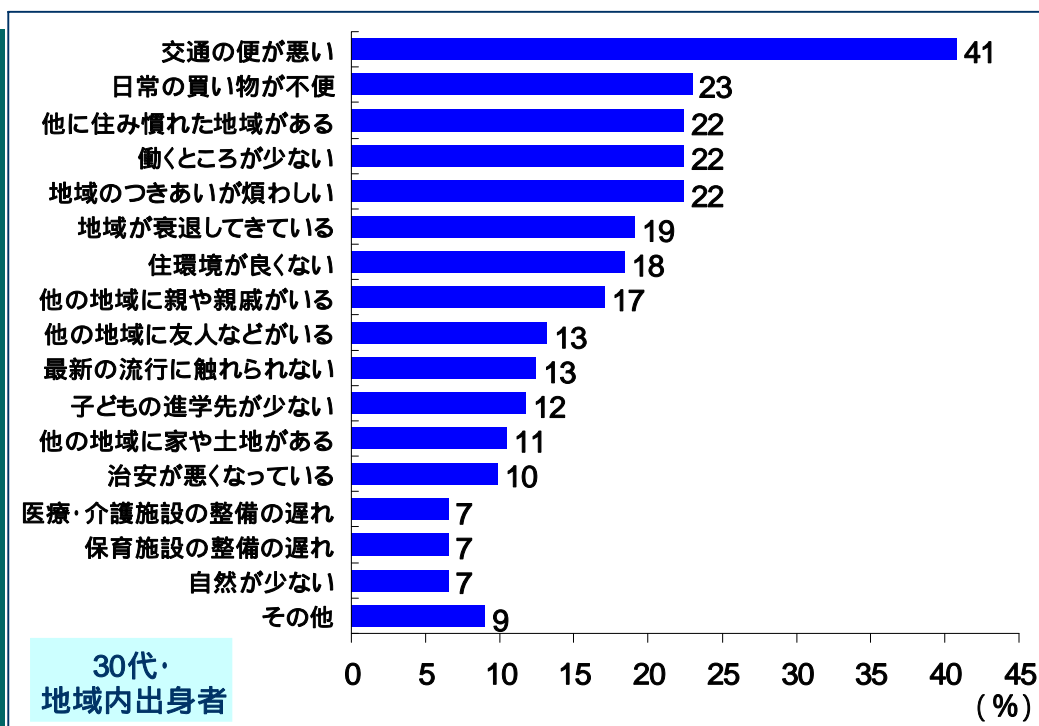
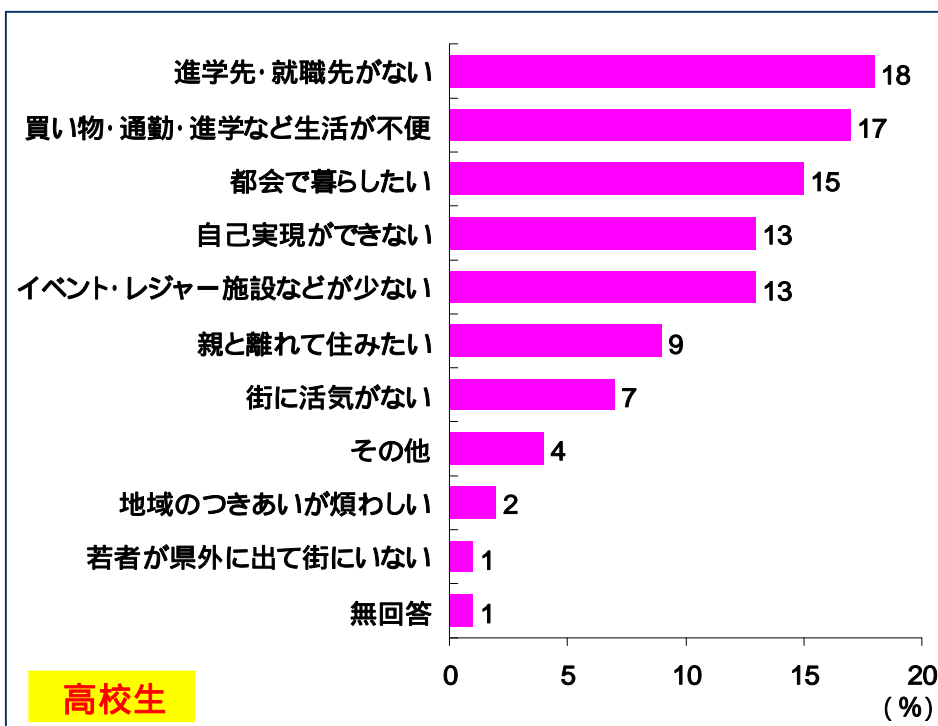
(出典) 三重県「高校生アンケート(2011年調査)」、同「30代の実態に関するアンケート(2009年12月調査)」、同「1万人アンケート(2010年3月調査)」

## 2- 他の地域に住みたい理由

進学・就職面や交通・生活面の理由が多い状況

- 高校生・30代に「他の地域に住みたい理由」を尋ねたところ、高校生では「進学先・就職先がない」との回答割合が最も高かったほか、双方に共通する理由として、「交通の便が悪く、買い物などの生活がしにくい」といった回答が多くなっている。

### 【他の地域へ住みたい理由】



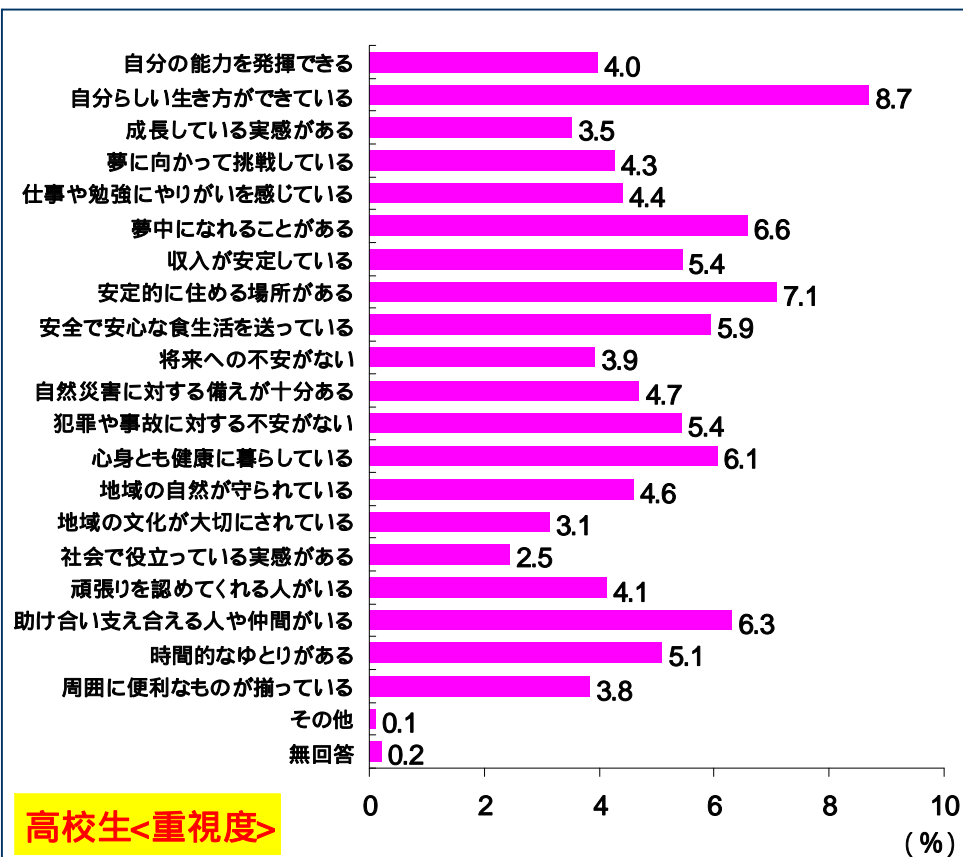
(出典) 三重県「高校生アンケート(2011年調査)」、同「30代の実態に関するアンケート(2009年12月調査)」

## 2- 「豊かなくらし」の重視度・充足度

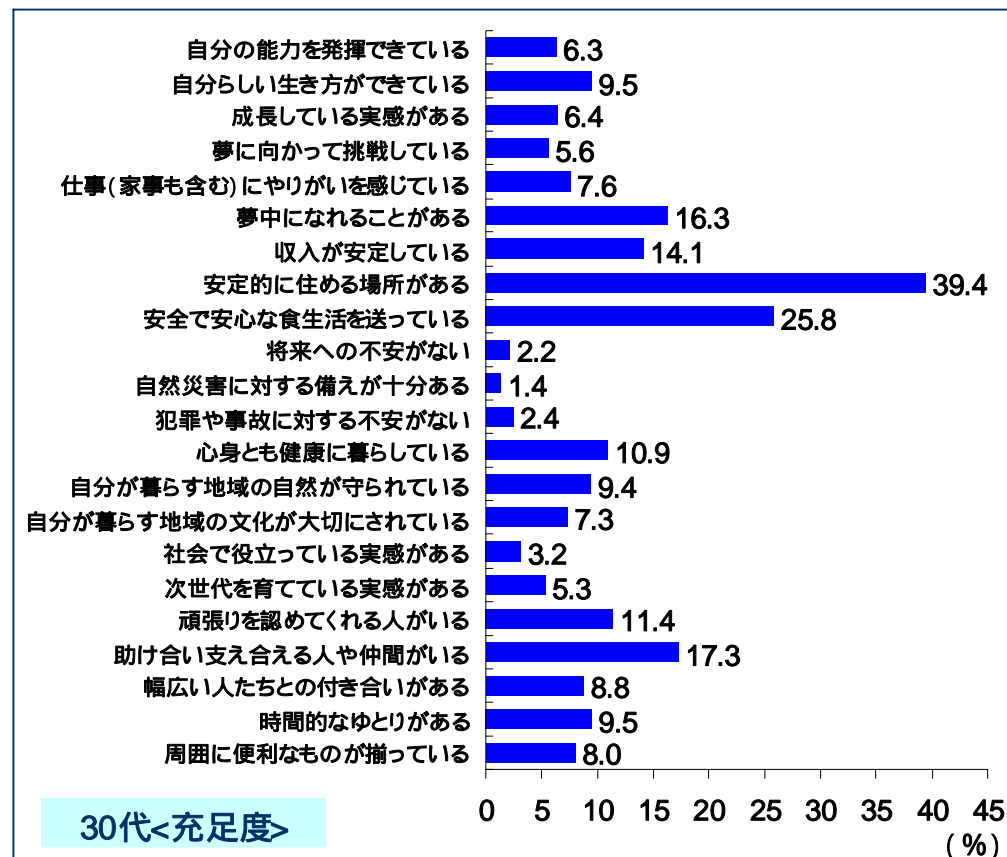
若者は個性・安心安全を重視

- 高校生に「豊かなくらし」の実現に向けて重視することを尋ねたところ、「自分らしい生き方の実現」や「夢中になれることがある」など、個性の発揮を重視する傾向が強い。これに対し、30代に「しあわせなくらし」のために必要な項目の現状における充足度を尋ねたところ、住まいや食生活の安心に対する充足度は比較的高いものの、治安や自然災害に対する充足度が低い状況となっている。

【「豊かなくらし」実現のために重視すること】



【「しあわせなくらし」に必要な項目の充足度】



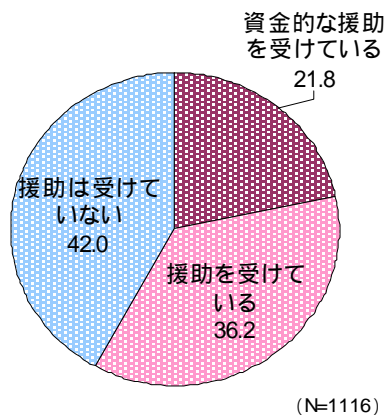
(出典) 三重県「高校生アンケート(2011年調査)」、同「30代の実態に関するアンケート(2009年12月調査)」



## 2- 30代の親への依存の状況

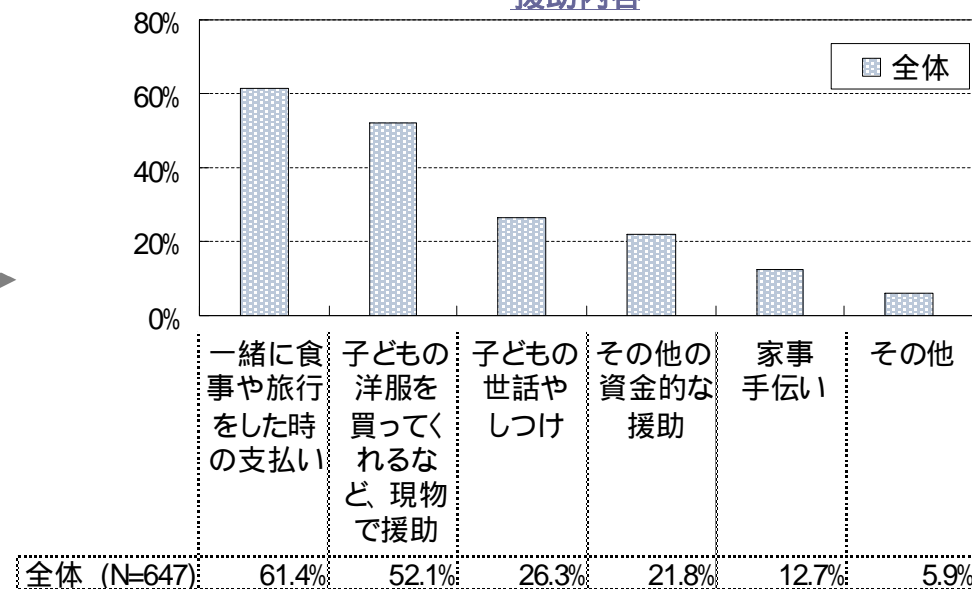
- 三重県在住の30代に対するアンケート調査によると、親世帯と同居していない30代の約6割は、親世帯から経済的・非経済的な支援を受けている。
- 親世帯と同居している30代の約75%は、生活費の多くを親に負担してもらっている。  
(出典: 三重県「希望が持てる地域社会実現に向けた基礎調査」)

親からの援助  
(親と非同居)

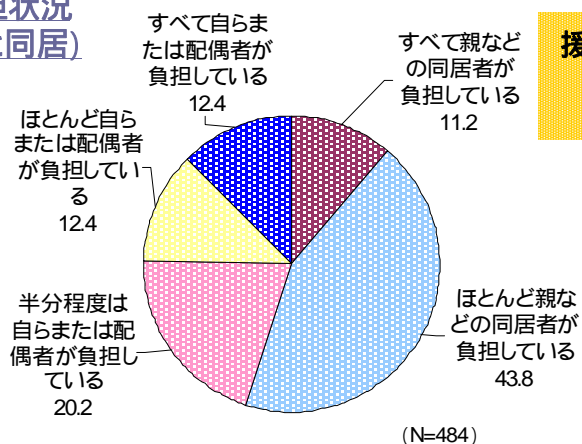


援助を受けている層  
約6割

援助内容



生活費の負担状況  
(親と同居)



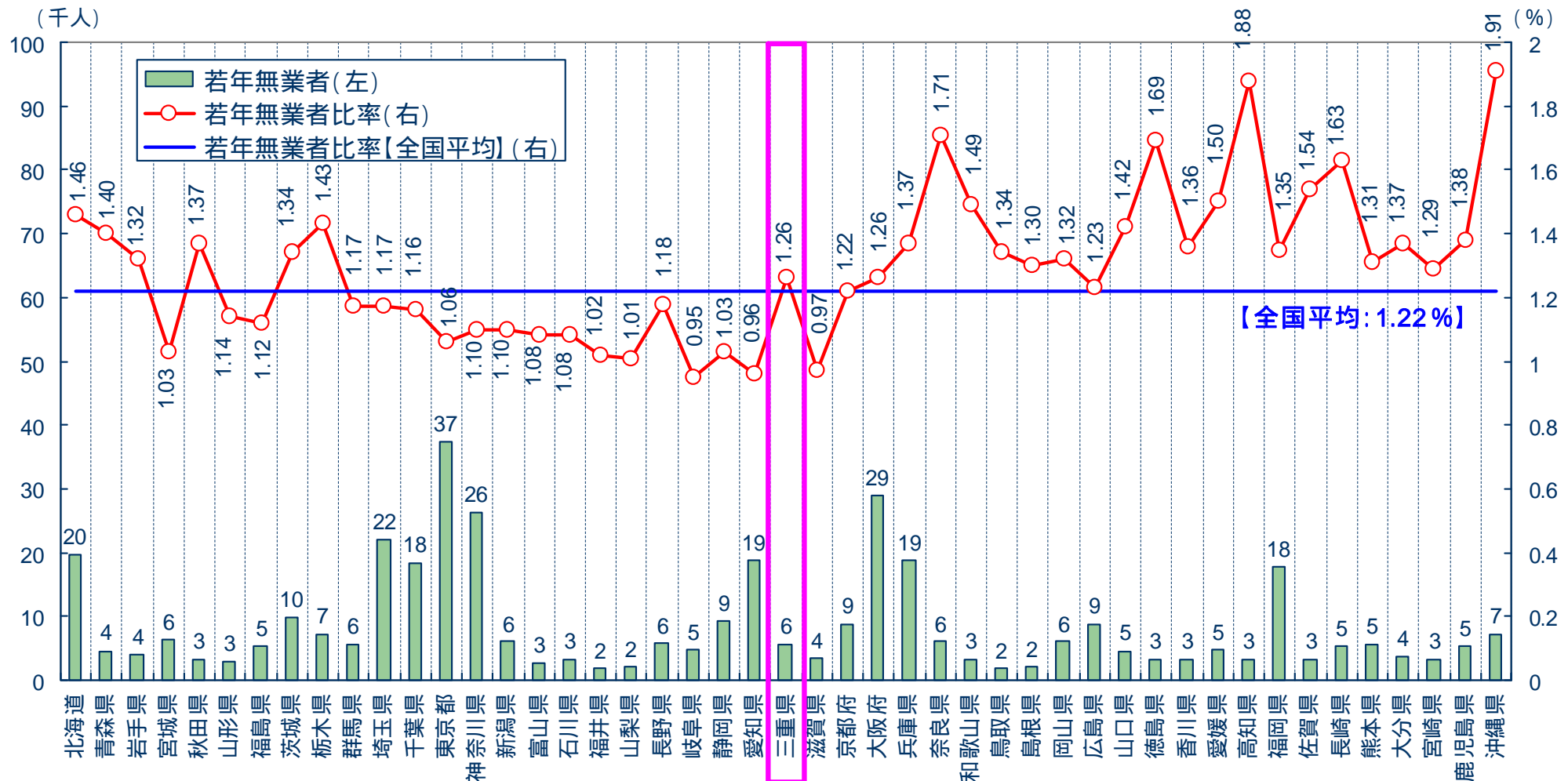
援助を受けている層  
約75%

	すべて親などの同居者が負担している	ほとんど親などの同居者が負担している	半分程度は自らまたは配偶者が負担している	ほとんど自らまたは配偶者が負担している	すべて自らまたは配偶者が負担している
全体 (N=484)	11.2	43.8	20.2	12.4	12.4
全国35歳 (N=2577)	25.0	13.6	37.1	13.8	10.5

## 2- 若年無業者の状況 - 三重県は全国比率よりも高い水準 -

- 三重県の若年無業者(注)は2005年で5,558人となっており、若年無業者比率(若年無業者/若年人口)は1.26%と全国27位で、全国平均の1.22%を上回る状況。

(注)厚生労働省の定義によると、若年無業者とは「非労働力人口のうち、15～34才歳で家事も通学もしていない者」を指す。



(出典)総務省統計局「国勢調査」(2005年)

### 3- 県内高等教育機関への外国人留学生数 実数、伸びともに中位

- 2010年における県内の外国人留学生数は、1,004人と2005年対比で19.2%増加したものの、全国順位は実数が25位、伸び率が24位と、いずれも中位。

(出典: 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」)

都道府県別留学生数(2010年)

順位	実数(人)		全国シェア(%)	順位	5年前比(%)	
1	東京	45,617	32.2	1	秋田	158.1
2	大阪	10,791	7.6	2	奈良	71.0
3	福岡	9,665	6.8	3	和歌山	69.6
4	愛知	6,773	4.8	4	福岡	68.6
5	埼玉	6,153	4.3	5	山口	66.9
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
25	三重	1,004	0.7	24	三重	19.2
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
43	山形	242	0.2	43	岐阜	10.6
44	島根	218	0.2	44	長野	18.1
45	鳥取	202	0.1	45	高知	19.7
46	高知	171	0.1	46	宮崎	22.9
47	宮崎	168	0.1	47	栃木	28.0
	全国	141,774	100.0		全国	16.4

### 3- 県内高等教育機関の出身国・地域別留学生数 中国等アジアが大部分

- 三重大学など三重県の高等教育機関に在籍する留学生については、中国からの留学生が739人と大部分を占める状況。(出典: 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」、三重大学提供資料)

	全国	構成比	三重県			
	(人)	(%)	(人)	構成比 (%)	うち三重大学 (人)	構成比 (%)
中国	86,173	60.8	739	75.0	167	69.9
その他アジア	44,782	31.6	228	23.1	60	25.1
欧州	4,390	3.1	10	1.0	7	2.9
北米	2,706	1.9	2	0.2	0	0.0
その他	3,723	2.6	6	0.6	5	2.1
合計	141,774	100.0	985	100.0	239	100.0

(注) 全国は2010年5月1日現在、三重県及び三重大学は2011年5月1日現在。

### 3- 県内企業の海外への事業展開の状況

海外現地法人数は全国上位

- 県内企業の出資する海外現地法人数は概ね増加傾向。さらに、全国順位をみると、三重県は14～15位に位置している。(出典:東洋経済新報社「海外進出企業総覧(会社別編)」)

順位	2000年		順位	2005年		順位	2010年	
1	東京	13,045	1	東京	14,105	1	東京	14,554
2	大阪	4,746	2	大阪	3,781	2	大阪	3,818
3	愛知	1,475	3	愛知	2,035	3	愛知	2,281
4	神奈川	749	4	神奈川	953	4	神奈川	1,154
5	兵庫	544	5	京都	629	5	京都	703
6	京都	510	6	兵庫	606	6	兵庫	654
7	静岡	415	7	静岡	493	7	静岡	526
8	埼玉	314	8	埼玉	347	8	埼玉	447
9	長野	220	9	長野	232	9	長野	302
10	千葉	201	10	千葉	213	10	千葉	252
11	広島	162	11	広島	177	11	広島	191
12	福岡	154	12	岐阜	164	12	福岡	178
13	岐阜	130	13	福岡	157	13	岐阜	161
14	群馬	111	14	三重	145	14	群馬	153
15	三重	90	15	群馬	124	15	三重	149
	全国計	23,825		全国計	25,210		全国計	26,556

(注) 上場・未上場を問わず現地法人に出資している日本企業で、日本企業の出資比率合計が10%以上の現地法人。

### 3- 海外からの企業進出の事例

- 三重県では海外からの企業誘致を積極的に進めているところであり、これまでいくつかの海外企業が三重県に立地している。



#### BASFジャパン

三重県四日市市に立地。本社はドイツ。主に機能性化学品の研究及び製造を行う。



#### エボニック・モノシラン・ジャパン

三重県四日市市に立地。本社はドイツ。主に太陽電池やディスプレイ、半導体の生産に使用されるモノシランを製造する。



#### 日本キャボット・マイクロエレクトロニクス

三重県津市に立地。本社はアメリカ。主に半導体の研磨材を製造する。

### 3- 海外への販路拡大・技術連携の事例

- 三重県では、知識集約型の産業構造への転換を図るため、広域的な産学官連携を進めることによりイノベーションを創出し、新事業、新産業の育成につなげていくこととしており、国内外の地域や機関と技術や資本の提携や共同研究等を通じて、ネットワークづくりを進めている。

#### 欧州

##### 【産業クラスターとの連携】

##### ドイツ・NRW州

・高度部材及びメカトロの産業クラスターとの連携を進めるため、内外商談会等による企業マッチングを促進

##### フランス・アルプインダストリー

・メカトロクラスターである「アルプインダストリー」との連携。  
・アルプインダストリー、アヌシー広域共同体等と産業協力協定を締結。(2009年11月)

##### 【海外研究機関等との連携】

##### CSEM社(スイス)、ブラウンホーファー研究機構(ドイツ)

・高度部材イノベーションセンターに「内外連携コーディネーター」を設置し、県内企業との技術マッチングを推進

##### トリアー単科大学(ドイツ)

・トリアー単科大学と共同プログラムを運営するAPU(立命館アジア太平洋大学)と連携。(海外への環境技術交流)

#### 米国

・2008年、カリフォルニア州にてGNIセミナーを開催。  
・三重大学とカリフォルニア大学アーバイン校との間で協力覚書を締結。

#### アジア

・2006年、2007年に河南省、2008年に湖北省の博覧会に出展・参加し、企業のPR・販路拡大等を実施。  
・2010年、2011年にタイ経済ミッション来県セミナー、商談会を開催。  
・ベトナム・中国向けのビジネスセミナー、個別相談会を開催。

#### ブラジル

・2008年、三重県経済訪問団がサンパウロ州を訪問。GNIセミナーを開催。

### 3- 国際環境技術移転研究センターにおける国内受入研修の実施状況

- 三重県四日市市にある国際環境移技術転研究センター(略称:ICETT)は、1990年に三重県、四日市市、経済界によって設立されて以来、海外からの研修生を2千人以上受け入れ、環境保全技術等の研修を行っている。

(出典: (財)国際環境技術移転研究センターホームページより)



国内受入研修国及び人数

(1990年～2009年累計)

受入国	受入人数
中国	491 人
インドネシア	285
フィリピン	156
タイ	120
ブラジル	111
ベトナム	101
エジプト	83
マレーシア	47
チュニジア	40
インド	34
その他	665
合計	2,133 人



### 3- グローバル化の中での人づくりに係る三重県教育委員会の取組

- 三重県教育ビジョン(平成22年12月策定)では、基本的な取組姿勢として掲げる7つの基本方針のなかで、郷土教育や国際化への取組を明示している。

#### < 7つの基本方針 >

- 1 一人ひとりの違いを認め合う態度を育み、個性を伸ばします
- 2 子どもたちの目線に立った、一貫した教育を行います
- 3 子どもたちにとって魅力のある学校を創ります
- 4 地域に根ざした学校づくりを行います
- 5 教職員がやりがいを持って子どもたちと向き合える環境を創ります
- 6 郷土の教育資源を生かします


*三重県の有する美しい自然や多彩な文化、歴史、地域のさまざまな分野で活躍する人材等を教育に生かします。*

- 7 社会の変化に柔軟に対応します

*少子化・高齢化、国際化・グローバル化、環境・資源問題の深刻化、高度情報化、経済社会構造の変化など、教育を取り巻く社会状況の変化に的確かつ柔軟に対応した教育を行います。*

## 3- -2 グローバル化の中での人づくりに係る三重県教育委員会の取組

### ● 特色ある郷土教育の取組例

学校名	取組内容
鈴鹿市立 石薬師小学校	<p><b>佐佐木信綱</b> 石薬師は東海道の44番目の宿場町であり、学習教材「三重の文化」にも紹介されている佐佐木信綱の生まれたところである。学校の横には佐佐木信綱記念館もある。このような環境を生かし、佐佐木信綱の短歌や佐佐木信綱という先人の知恵や生き方を学ぶ学習に取り組んでいる。</p> <p>「三重の文化」を使っての学習や、佐佐木信綱記念館の見学や顕彰会の人からの聞き取りを通して、佐佐木信綱や石薬師の歴史について知り、自らも短歌に親しみ「ふるさと石薬師」に誇りと愛着をもつ子どもの育成をめざしている。</p>
志摩市立 安乗中学校	<p><b>安乗文楽</b> 安乗文楽保存会と安乗中学校文楽クラブが中心となり、国の重要無形民族文化財に指定されている安乗文楽(安乗の人形芝居)を保存する活動を行っている。</p> <p style="text-align: right;">写真は、志摩市観光協会HPより転載。</p> 
伊賀市立 長田小学校	<p><b>伊賀焼・松尾芭蕉</b> これまで豊かな自然に囲まれた地域の暮らしをいかし、地域の方とふれあい、聞き取りや体験を通して地域の良さを学び、郷土を愛する豊かな心情を養う取組を進めている。</p> <p>地域での調べ学習や地域の人々との交流等の活動を取り入れた学習を、教科横断的な取組の研究をおこない、「伊賀焼」の体験学習や地域の偉人である「松尾芭蕉」を教材化した学習を計画している。</p>

### 3- -3 グローバル化の中での人づくりに係る三重県教育委員会の取組

- 海外の学校と姉妹校提携を結んでいる県立高校の状況 -10校が提携-

高校名	姉妹校名	国名	提携年
朝明	養正高校	韓国	平成15年
飯野	ローズヴィルカレッジ	豪州	平成元年
津商業	大聖学園聖南高校	韓国	平成14年
久居	ギラウィン高校	豪州	平成6年
上野	キング・エドワード 世校	英国	平成10年
名張西	リンディスファーン・アングリカン・グラマースクール	豪州	平成22年
松阪商業	キャンベラ高校	豪州	平成5年
昴学園	養正高校	韓国	平成16年
宇治山田商業	モンバルク・セカンダリ・カレッジ	豪州	平成6年
水産	パラオ高校	パラオ	平成9年

### 3- 三重大学によるグローバル人材の育成

#### 国際キャリアアッププログラム

- 三重大学では、国際的に活躍できる人材を育成するための体系的な取組として、6つのプログラムから構成される「国際キャリアアッププログラム」を、2009年度より実施。

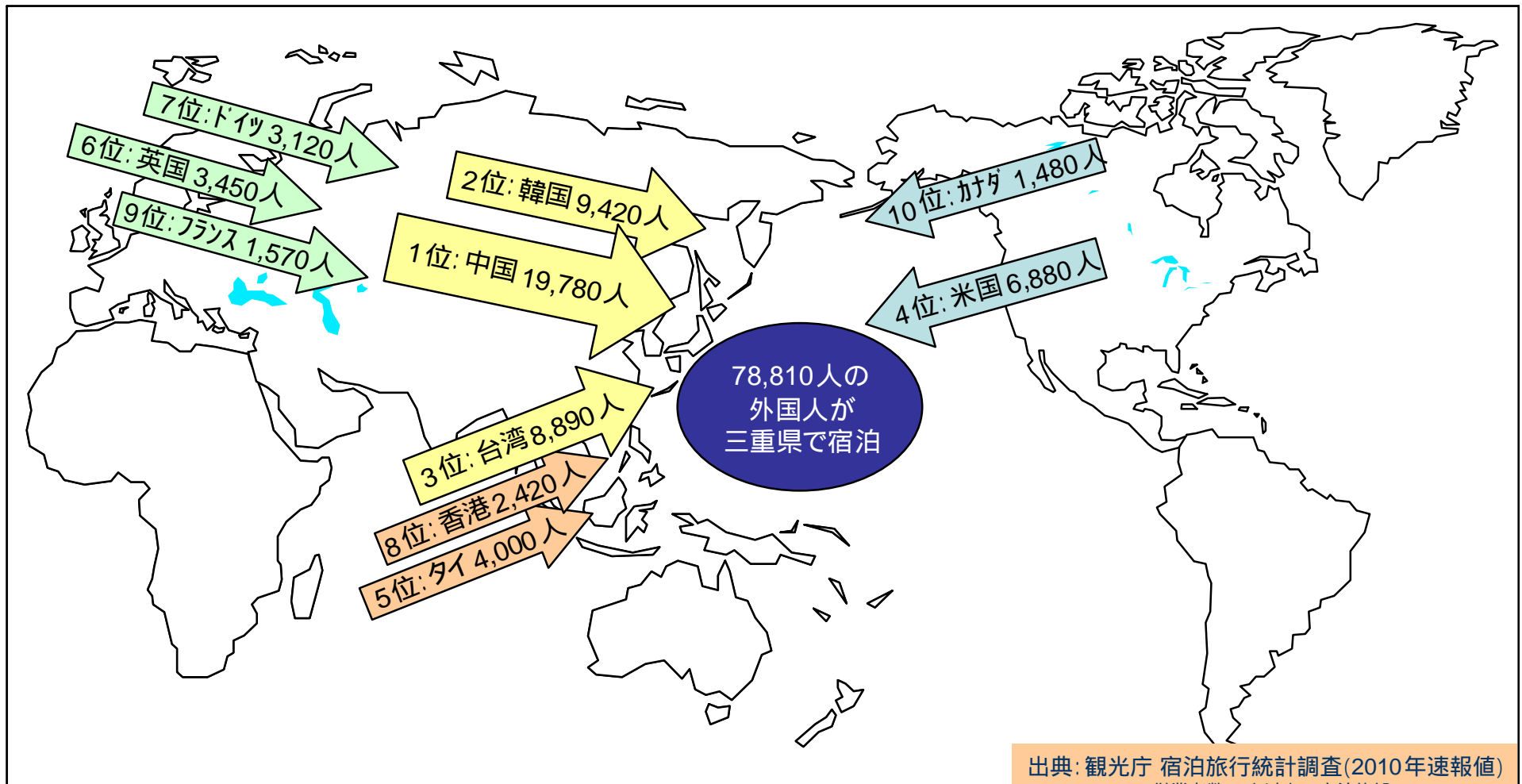
#### < 国際キャリアアッププログラム概要 >

プログラム		2009年度	2010年度	備考
語学研修	(派遣学生数)	34名	39名	協定校: シアトルパシフィック大学(米国)、天津師範大学(中国)、タスマニア大学(豪州)、エアランゲン・ニュルンベルグ大学(ドイツ)
英語等による国際教育	(開講科目数)	17科目	24科目	
短期国際教育 (2010年度より実施)	(派遣学生数)	-	9名	派遣先: ベトナム
国際インターンシップ	(派遣学生数)	7名	6名	協定高: タイ国内の6大学
3大学国際ジョイントセミナー & シンポジウム	(派遣学生数)	13名	14名	開催は、三重大学、江蘇大学(中国)、チェンマイ大学(タイ)の3大学の持ち回り
複数学位取得プログラム	(派遣学生数)	0名	1名	2010年度実績: スリヴィジャヤ大学(インドネシア)

(出典) 三重大学提供資料より作成

### 3- 三重県への海外からの宿泊者数の状況 -約半数が、中国、韓国、台湾から-

- 2010年(平成22年)には、海外から約8万人の旅行者が三重県で宿泊しており、国別では、中国、韓国、台湾が多い状況となっている。

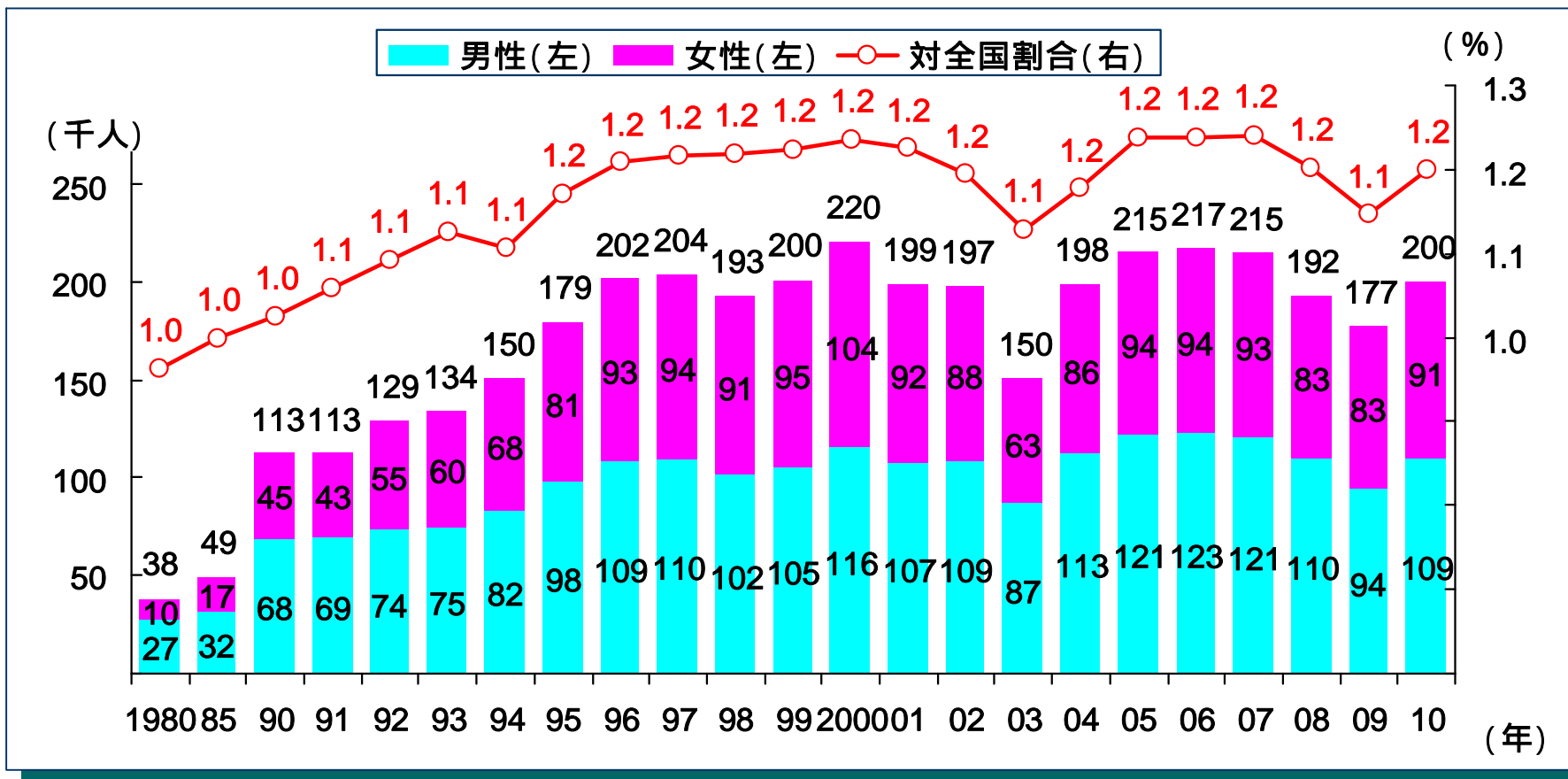


出典：観光庁 宿泊旅行統計調査(2010年速報値)  
(従業者数10人以上の宿泊施設)

### 3- 県から海外への渡航者の状況 このところやや伸び悩み

- 三重県から海外への出国者数の推移をみると、2000年頃まで増加傾向を辿ったものの、近年はやや伸び悩んでいる。2010年は約20万人と、2008-09年の落ち込みからは持ち直したものの、ピーク対比で2万人程度少ない状況となっている。なお、全国に占める割合は、近年1.1～1.2%前後でほぼ横這いとなっている。

【男女別】



(出典) 法務省「出入国管理統計」